

昭和十六年版

豊橋商工案内

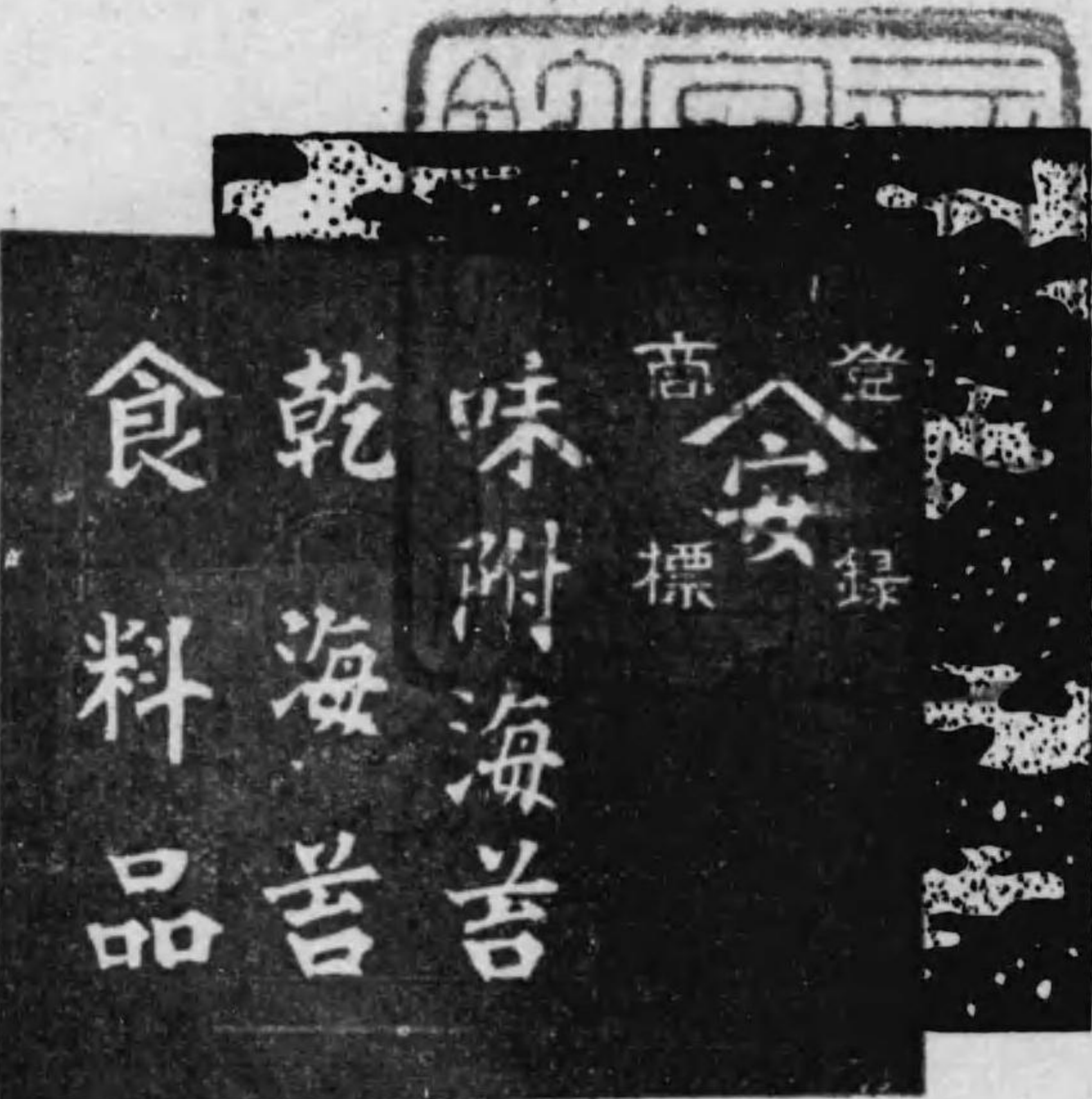
豊橋商工會議所



始



特229
879



東邦電力株式會社 豐橋支店

豐橋市松葉町
電話(代表)三一一五番

山安海苔株式會社

東京店 東京市日本橋區室町二丁目一四ノ四
電話(日本橋)六五三番

大阪店 大阪市北區今井町四〇番地
電話(堀川)二五二二番

名古屋店 名古屋市西區小島町一
電話(西)四九六五番

豐橋店 豐橋市魚町五十八番地
電話(四)一一五三番



會社 山安食料品店

本店 豐橋市魚町五十八番地
電話(四)一一五三番

豐川支店 愛知縣寶飯郡豐川町
電話二六〇番

會社 豐橋市神明町交叉点

★軍需・官廳・民需御用

營業種目
絹綿各種
吹留加工品各種
各種纖維反毛品
混紡用絹纖維各種
セリシン定着絹纖維品

年産額 壹百五十萬圓

豊橋絹綿株式會社

取締役社長 原 清

豊橋市吉田町一七
電話 三二九四番
振替名古屋四六〇五番
東京工場
東京市高田區南町三丁目
電話 牛込 四六五八番

- 一、本會議所は商工會議所事務權限に準據して經營するものであるから、商工業に關する各種の御意見等は何事に依らず申出でられたい。
- 一、商品の産額・集散額・運輸交通及び金融狀態等時々御報道を煩ししたい。
- 一、商工業の狀況・調査材料蒐集等の爲、本所員訪問の際又は書面で照會した節は特に御便宜を與へられたい。
- 一、諸會社・組合等で業務報告書御作製の節は其の都度御寄贈ありたい。
- 一、商工業家各位で本會議所の照會・紹介又は證明書を要せらるゝ場合は御遠慮なく御申出でられたい。
- 一、商工業に關して紛議を生じた場合は御申出により仲裁判斷或は調停和解の勞を採ります
- 一、本會議所には各方面から寄贈に係る商工業に關する有益なる圖書の備付があるから、執務時間中は何時でも閱覽に供します。

豊橋商工會議所

商工會議所の機能

- 一、商工業に関する通報をする事
- 二、商工業に関する仲介又は斡旋をする事
- 三、商工業に関する調停又は仲裁をする事
- 四、商工業に関する證明又は鑑定をする事
- 五、商工業に関する統計の調査及び編纂をする事
- 六、商工業に関する營造物の設置及び管理をする事
- 七、其の他商工業の改善を図るに必要な施設をする事
- 八、商工會議所は商工業に関する事項に付行政廳に建議する事
- 九、商工會議所は行政廳の諮問に對し答申する事
- 十、行政廳は商工會議所に對し商工業に関する事項の調査を命ずる事を得
- 十一、商工會議所は商工業者に對し商工業に関する統計其の他の調査を爲すため必要な資料の提出を求むる事を得



會 頭
清 水 熊 太 郎



副 會 頭
神 野 太 郎



副 會 頭
野 澤 藤 五 郎



商業部長
小川 鹿三



工業部長
大林 正志



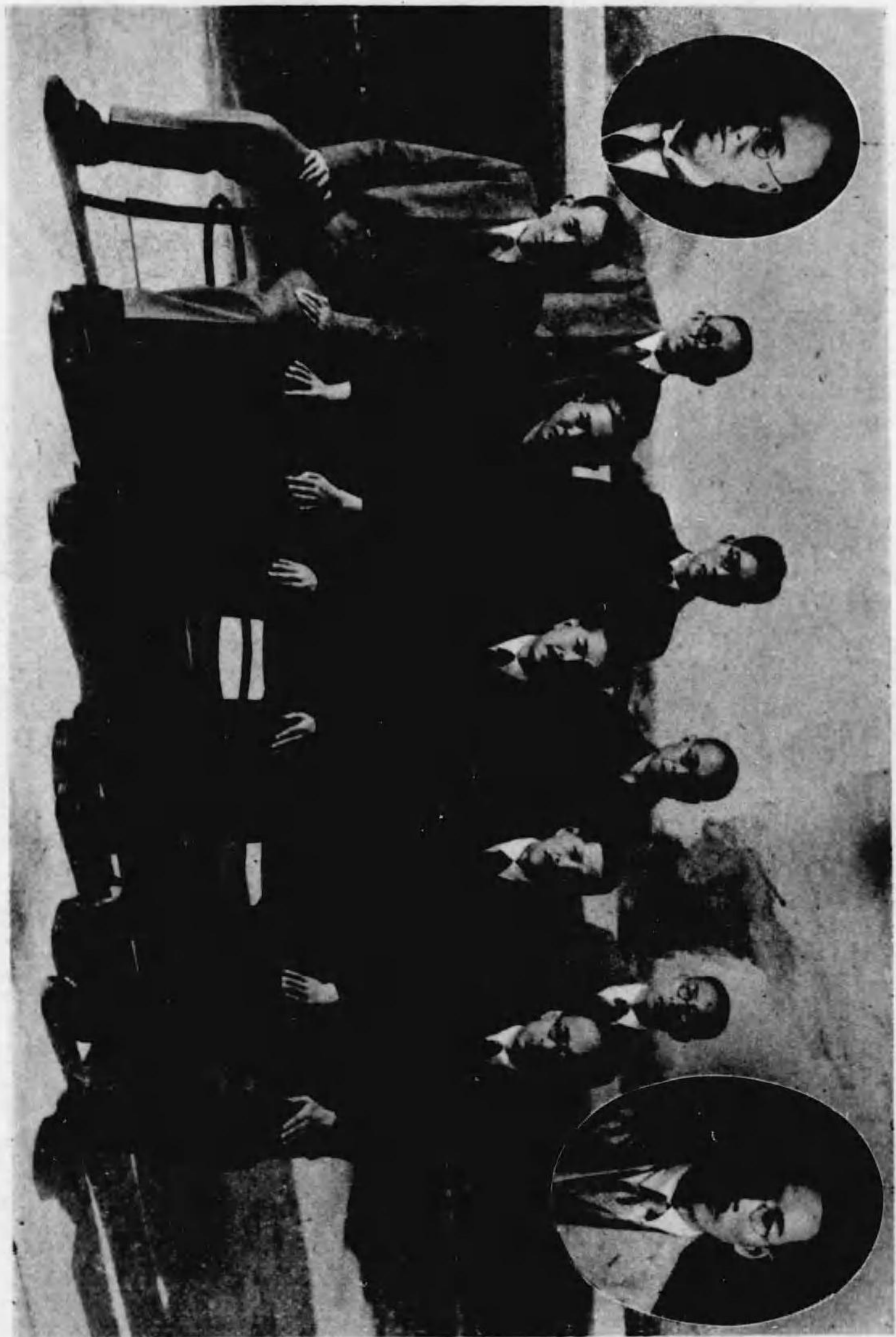
理事
鈴木 澄衛



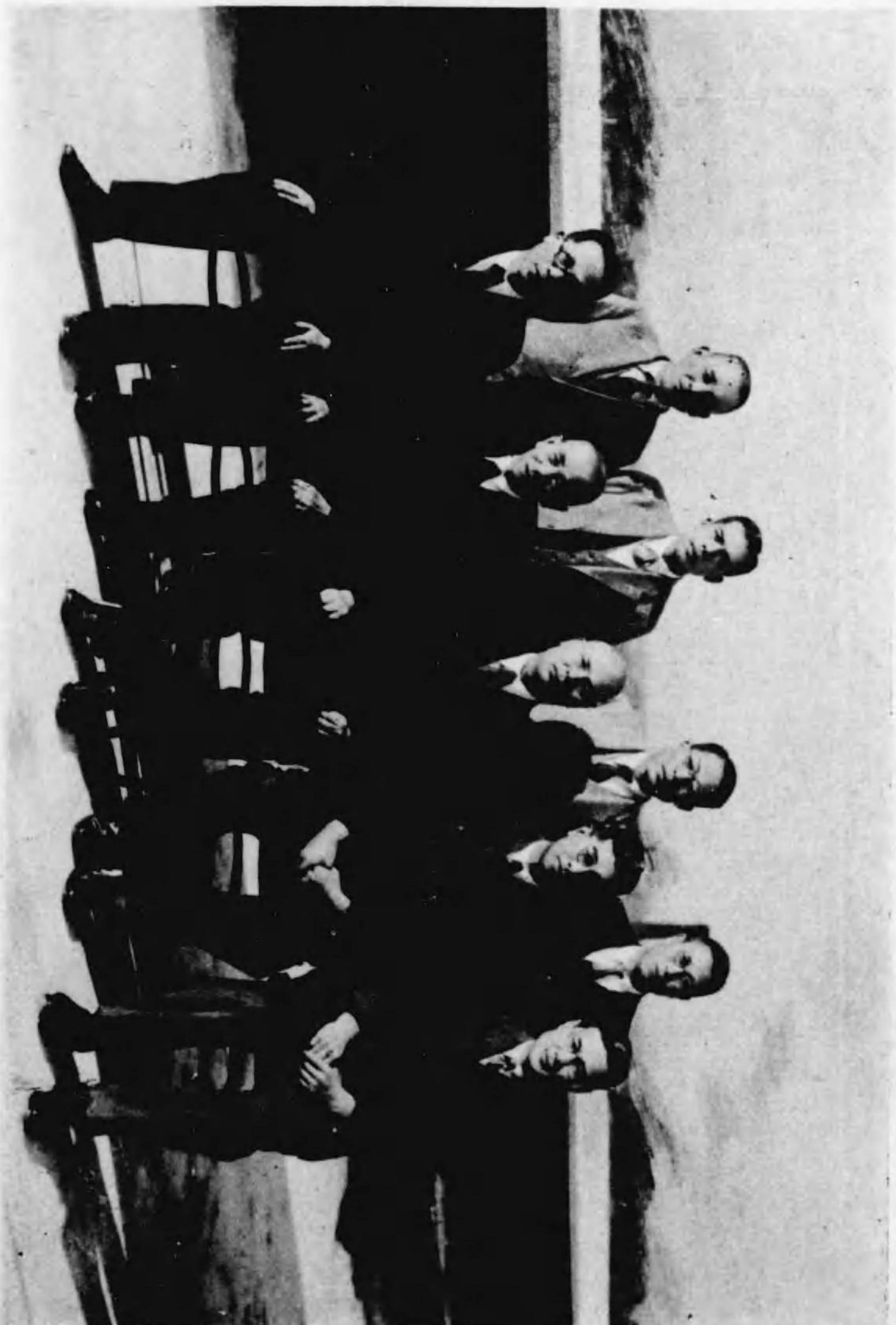
交通部長
塚本 喜一



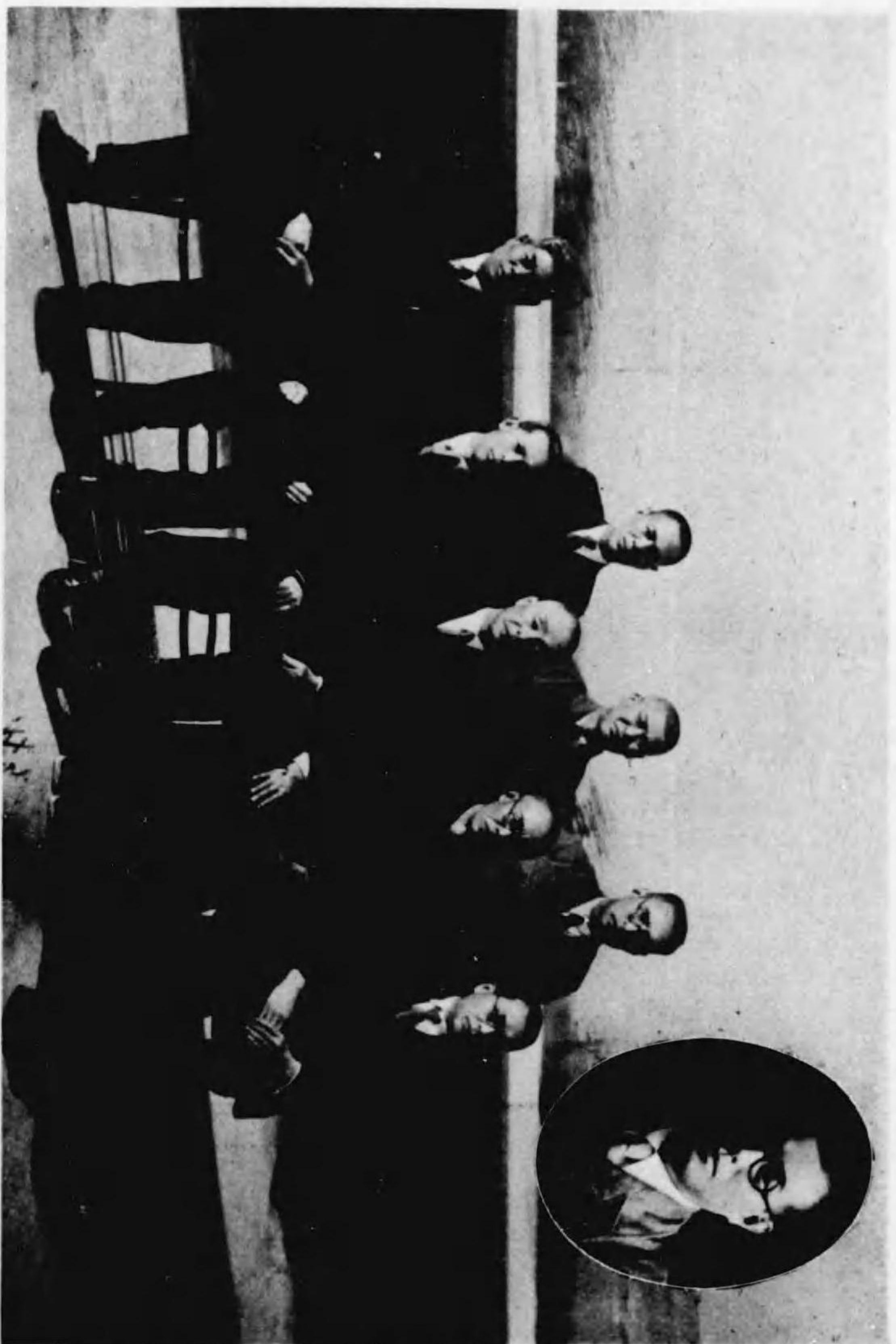
理財部長
林 眞一



河合藤四郎
内山喜一
藤井理一
白井晋介
宮路徳一
小川鹿三
杉浦安三
柴藏河合
岩次鈴木
省平
富川佐一



工業部議員
 大羽竹次郎 原 原 清 大 野 賢 治 村 彌 八 富 田 實 林 平 眞 一
 清水壽一 鈴木磯太郎



交通部議員
 石川修治 塚 倉 橋 繁 治 外 山 傳 八 田 中 惣 太 朗 富 田 九 一 郎
 石原七治郎 榎 本 爲 知



理 財 部 議 員
 石川 謙次郎
 市 小 戸 爲 作
 神 戸 爲 作
 會 木 和 田
 國 崎 國 太郎
 助 山 崎 太郎
 彌 助 神 野 太郎
 加 藤 彌 助
 鈴 木 和 一
 近 藤 十 治 郎

豊橋商工業案内目次

總	說	一
沿革・地勢・氣象・富力・隣接町村		
商	工 業	四
豊橋商工會議所沿革		八
交	通	三
宗	教 育	三
社	會 事 業	五
土	木 衛 生	六

名 所 舊 蹟

今橋城・戸田今川の争闘・家康と織田氏・城主の交代・最後の藩主・吉田城
趾・仁連木城・其の來歴と宗光・重貞の戦死・天正の戦・康長の戦功・豊川
の清流・古名の色々・橋梁移轉・地子御免・貨物の運上・舊幕時代の湊

豊橋名代行事

笹踊・煙火・鬼祭

附近町村を探ねて

豊川・鳳來寺・田口鐵道沿線・豊橋以西・豊橋以東・名鐵渥美線沿線・八名
方面

商工業者人名

附 録

官衙・市内諸組合・其他

豊橋商工業案内

總 説

沿革―地勢―氣象―富力―隣接町村

豊橋市はもと吉田の宿と呼ばれ、東海道五十三次の一として名高かつた。種々異説はあるが、「吉田通れば二階から招く、しかも鹿の子の振袖が」といふ俗語は此の地から發生したものと云はれて居る。明治二年六月豊橋と改稱、明治二十二年初めて自治制を實施され、明治三十九年八月市制施行地となつた。思ふに、吉田と呼んだ頃の戸口は一體どの位有つたであらうかと言ふに、昔から吉田の二十四ヶ町と言つて徳川三百年の間に變りの無かつた如く、戸數にも左程の増減を見なかつた。貞享五年に一千戸のものが、寛永七年に一千十一戸、寶政十年に一千二戸と言ふ狀況である。尤も此の以前即ち寛永四年に大地震があつて、總戸數一千十一戸の内、全潰戸數二百十戸、半潰戸數二百六十六戸で、外に死者十一人も出した事であるからだとしても、極めて其の増加率の少なかつたのは事實である。随つて人口も亦弘化元年に男女合せて五千五百四十五人、其の翌年には十人を減じ、嘉永元年に至つて五千五百十九人と言ふ數字を示して居る。然るに明治二十二年初めて自治制を實施された當時には、今の豊橋の區域は豊橋町・豊橋村

・花田村・豊岡村の一町三ヶ村であつた。其の内豊橋町に屬する戸數は三千五百九十七戸、人口一萬二千三百三十九人を算し、次いで明治二十八年一月に豊橋町と豊橋村の合併が行はれ、明治三十九年七月更に花田・豊岡の二村も之れに合併し、續いて同年八月市制施行地となつたのであるが、當時の戸數は九千九百戸、人口三萬七千六百三十五人であつたが、明治四十一年十一月第十五師團の設置により著しく膨脹し翌四十二年には戸數一萬一千七百五十九戸、人口四萬四千六百八十七人となり、大正九年の國勢調査では人口六萬五千六百六十三人であつたが、五年後の大正十四年に於ける中間國勢調査では八萬二千三百七十一人、昭和五年十月の第二回國勢調査には九萬八千五百五十五人を數ふるの状態に至つた。其の後師團廢止も大なる影響なく、蠶絲業の著しい發達に依り益々發展の趨勢を示した。

更に昭和七年九月一日より、隣接町村寶飯郡下地町・渥美郡高師村・牟呂吉田村・八名郡下川村・石巻村大字多米を合併し、茲に人口十四萬を擁する大豊橋市が實現するに至つた。

斯くて我が豊橋市は三河の東南に位し、今や北は寶飯郡豊川町・牛久保町・小坂井町、東は八名郡石巻村・静岡縣知波多村・渥美郡二川町、南は渥美郡高豊村・老津村等に境を接し、西は渥美灣に面してゐる。位置は東徑百三十七度二十三分三十秒、北緯三十四度四十五分四十秒である。地勢は概ね平坦であるが、一般的に言へば、東部より西部へ傾斜し、東西及び南北の距離は共に夫々三里二十餘町、總面積六・八一一方里を有し、東三平野樞要の地點を占めてゐる。地質は豊川に沿ふた市の低地は概して沖積層であるが市街の大部分は高地で多くは古生層である。氣象は其の年によつて多少の差はあるが、夏は大して暑くな

く、又冬も降雪・結氷を見るは極めて稀であつて、年内を通ずると天氣晴朗・寒暑中和の天恵に富み、全國有數の健康地である。

而して昨年十二月末現在總戸數は二萬七千四百九十二戸、人口十四萬六千五百五人に達してゐるが、戸口とも益々増加せんとする趨勢を示してゐる。

由來東三河と稱するのは、豊橋市を中心として渥美・八名・寶飯・南設樂・北設樂の一市五郡を言ふので、豊橋の接續町村は渥美郡二川町・高豊村・老津村・寶飯郡豊川町・牛久保町・小坂井町・前芝村・八名郡石巻村である。

我が豊橋市内に於ける各種の營業は、生産者、問屋、小賣業を通じて大体百數十種に區別するを得べく其の内なるものを譽ぐれば

玉糸製造業、生糸製造業、麻真田製造業、繭糸問屋業、繭糸屑物問屋業、再生絹糸業、罐詰製造業、材木商
米穀商、肥料商、呉服商、酒類商、味噌醬油商、履物商、菓子商、洋物雜貨商、足袋商、荒物雜貨商、乾
物商、薪炭商、運送業、家具商、魚類商、海産物商、鶏卵商、文房具商、糸類商、漁網商、青乾物商
等である。

豊橋市を中心とする附近農村の繭の生産高は素晴しく、市部の産額は昨十五年には二十三萬一千八百餘貫、金額二百十七萬二千餘圓である。製糸業の發展は實に驚く可きもので就中玉糸に至つては彼の本場の上州を凌駕し、所謂三州玉糸の特産地として恰も長野縣諏訪湖畔に於ける生糸業と相並び本邦製糸工業界の二大中心地として内外に知悉せらるゝ處である。東海道の西南に林立せる煙筒は何れも其の工場であつて、地方の俗諺に『吉田鹿の子と昔は言へど今は玉糸日本一』とさへ諺はるゝのである。

然し乍ら當市が蠶糸業に於てかゝる發展を見た反面、他の工業に之れと並ぶものがないのは當市の最大缺陷であるが、近時郊外南北兩重要施設の擴充整備と相待つて重工業界も勃然たる飛躍を示し、表面に登場した觀が深い、更に他の大工業を移植して多角工業都市を打ち立てることは誠に緊要事である。

豊橋市に於ける最も重要な工業物産としては第一に玉糸、生糸、及繭糸屑物を挙げなければならぬが、之れに次ぐは味噌、醬油、麻真田、漁網、毛筆、再整絹糸等であつて、其の内麻真田は我が國産中でも特殊の地位を占め重要輸出品の一つで外國婦人の夏帽専用の材料で製品の優良なるは既に知られてゐる。亦毛筆の製造も遠く吉田時代より始まつたもので、日露戰役後急激に發展し、製品の多くは東京方面へ賣捌かれてゐる。

次いで菓子、酒類、蒲鉾、竹輪、海苔製品、木竹製品、履物、綿布製品、製綿、真綿、吉田紬、清涼飲料、乾物、甘藷、野菜、等も決して見逃すことの出来ない物産である。尙右各種の營業に就き工業方面から見れば繊維工業、機械器具工業、化學工業、飲食品工業、特殊工業、製作工業、土木建築工業其の他工場數及職工數も却々多數に上つてゐる。更に近年國策代用品も擡頭して、再整ゴム、皮革代用絹革、ブリキ代用罐、蓄音器針代用硝子針、綿紐代用セロファンテープ、松脂油、合成樹脂製品、繭纖維の羊毛代用品、セロファン製の金網代用、疊縁、座布圍カパー、擬革靴、等の製造行はれ新興産業として期待す可きものも多い。

然し乍ら事變以來我國各般の經濟機構は高度國防國家に即應す可き体制への編成替を要請され、従つて當市商工業界も之れが例にもれず新体制發足に其の態様を整へ様としてゐる。即ち商工業者自らの改組による再編成を意圖する運動は全面的に商業組合、工業組合の組成となり、當市に於て此の二、三年來に結成せられた商業組合は四十三、工業組合は二十九に及び、更に逐年の統制強化は必然に企業の合理化を必

要とする様になり、組合を中心とした共同経営体としての結實を見、既に企業合同を爲して新發展をしたものに、組合形態による愛知縣米穀配給統制組合、豊橋薪炭小賣商業組合、株式會社形態による貨物自動車業、乗用自動車業、豆腐製造業。

有限會社による竹輪蒲鉾商、食鶏商、葬具商等があり、又、華かなりし豊橋蠶糸業界も蠶糸業統制法の實施により時局即應の体制が調へられ纖維報國に邁進してゐる。

農業産品は昭和七年の隣接町村合併の爲めに耕地も激増し合併前には田四百三十二町歩、畑四百一十町歩であつたものが合併直後は田三千八十三町歩、畑二千六百九十五町歩となつて、米、大麥、小麥、甘藷大根、瓜類が主なるものである。此の方面の機關としては市農會を最高なるものとして、養蠶組合、家禽購買販賣組合、農業に關する産業組合がある。

然らば商工業方面に於ける機關はどうであるかと言ふと、商工會議所、魚市場、青物市場、小賣市場、公設市場等が設立され、何づれも目覺しい活動を續けてゐる。

市内に本店を有する諸會社の數は本年六月末の調査によると、株式會社一四五、合資會社二三四、合名會社六〇、合計四三九であつて市内に本店を有する會社の活動を事業別にすると、鑛業四社、資本金三百十六萬圓。工業一三五社、資本金千五百九十九萬千八百五十圓。商業二六八社、資本金千二萬千五百五十圓。運輸及倉庫業二五社、資本金千三百十八萬五千七百圓。其他七社、資本金六十二萬千五百圓。總資本金額

三千八百五十八萬百五十圓（拂込二千七百四十九萬三千二百七十圓）又有限會社は二七社、出資總額は百二十六萬八千九百圓である。

是等の會社は我が豊橋産業界のために直接間接多大の利益を齎らしてゐることは言ふ迄もないけれど、右の狀況から觀察するときは未だ豊橋に於ける資本の活動は甚だ微弱なるを感ずると共に、吾人は將來我が事業界、産業界のために研究を費さなければなるまいと思ふ。

尙之れに直接重要な關係を有する金融界の狀況は大野銀行、東海銀行、第一銀行、日本貯蓄銀行、不動貯金銀行、岡崎貯蓄銀行、愛知縣農工銀行、の各支店銀行により支配されてゐる。此の外信用組合、金銭貸付業、質屋業、無盡業等數種の機關があつて、商工業者及労働者の爲めに便益を與へてゐる。

當會議所沿革

當會議所は明治二十六年三月二十五日の創立で、其の區域は當時の渥美郡豊橋町を主心に同郡田原町・同郡豊橋村・寶飯郡下地町・同郡豊秋村・同郡牛久保町・同郡豊川村・同郡前芝村の八ヶ町村で、創立當時は同町大字札木六十三番地に事務所を置き、次いで大字關屋百五十番戸に移り、其の後明治三十五年五月に同町大字上傳馬丙百十九番戸に移り、從來の區域を變更して更に花田村をも編入したのである。更に明治四十一年十月一日に豊橋市大字西八町百三十七番戸に、大正四年二月十五日同市大字中柴乙百二十番戸、同十年五月六日に同市大字本町二十九番地に、同十五年十月二日花田町石塚四十五番地の五に移轉したのであるが、市の發展に伴つて事務は益々繁劇を加ふると共に、多年の懸案であつた新築の機運熟し、昭和三年一月二十八日の總會に於て同字四十二番地の一に、二ヶ年度に渉る繼續事業として工費六萬圓を以て新築するに決し、四月六日地鎮祭を行ひ、同三十日起工、十月九日落成を告げ、同十六日移轉した。此の間數次の變遷を重ね、隨つて役員の変更も屢々行はれて居る。

而して最近五ヶ年間の經費豫算は、昭和十二年度金一萬六千五百圓、同十三年度金一萬七千三百圓、同十四年度金一萬九千二百圓、同十五年度金二萬七千八百圓、同十六年度金二萬九千六百圓である。尙、會頭・副會頭の異働は左の如くである。

就職年月日	會頭	副會頭
明治二十六年	加藤 六藏	三浦 碧水
同 二十八年四月	三浦 碧水	
同 三十年九月	加藤 六藏	
同 三十三年七月	三浦 碧水	
同 三十三年九月	瀧崎 安之助	
同 三十四年六月	中尾 十郎	
同 三十四年九月	原田 万九郎	
同 三十四年九月	佐藤 市十郎	遠藤 安太郎
同 三十五年三月	遠藤 安太郎	杉田 久吉
同 三十八年五月十九日	遠藤 安太郎	中西 廣三郎
同 三十八年五月十九日	遠藤 安太郎	鈴木 清十郎
同 三十九年六月廿五日	高橋 小十郎	大山 復次郎
同 四十年十月一日	高橋 小十郎	遠藤 安太郎
同 四十一年八月三十日	服部 彌八	原田 万九郎

明治四十二年五月三日	服部彌八	原田万九
同四十四年五月五日	田中新	中西廣三郎
大正二年五月一日	田中新	服部平之助
同六年五月一日	白井直次	神戶小三郎
同七年十月七日	高橋小十郎	中西廣三郎
同十年四月十六日	高橋小十郎	高橋小十郎
同十二年九月廿八日	山本安太郎	服部彌八郎
同十四年四月十六日	福谷元次	山本安太郎

昭和四年四月十五日	福谷元次	神野三郎
同五年三月七日	神野三郎	山本安太郎
同五年三月十八日	神野三郎	河合孜郎
同八年四月十日	神野三郎	河合孜郎
同十年四月二十日	河合孜郎	山田芳藏
同十一年九月四日	河合孜郎	内藤齋平
同十二年四月八日	河合孜郎	山田芳藏
同十三年七月廿七日	河合藤四郎	加藤發太郎
同十五年二月廿五日	河合藤四郎	白井淺治郎
同十六年四月八日	河合藤四郎	清水熊太郎
同十六年十二月十五日	清水熊太郎	神野太郎

表支關たる豊橋驛を始め其他各驛最近の發着貨物及び乗容の狀況は、逐年増加の趨勢を示し、市内に於ける自動車の發達著しく、バスは當市を中心として縦横に疾驅して居る。我が産業界は益々發展し、市民經濟の向上亦顯著である。豊川鐵道の姉妹線とも言ふべき鳳來寺鐵道は、豊川線の終點長篠驛から北設樂郡三輪村・川合間を運轉し、同鐵道鳳來寺口驛より鳳來寺村・海老町を経て北設樂郡田口町へ至る田口鐵道、渥美半島を縦貫する名古屋鐵道渥美線は、豊橋驛前から田原町を経て黒河原まで運轉してゐる。名古屋を起點とする名古屋鐵道は名古屋豊橋間を連絡し、市内電車は豊橋驛から南は柳生橋、東は東田まで運轉し、大いに便宜を與へてゐる。三十有餘年の懸案であつた三信鐵道は昭和十二年八月全線の開通を見、海の日本と山の日本を横斷し、信州飯田へは僅か三時間餘を以て達し、伊那電氣鐵道に依り中央線辰野驛に連絡、裏日本と表日本を結び付ける幹線で、豊川稻荷・鳳來寺・善光寺等を參拜する善男善女は勿論一般旅客の往來は頻繁となり、更に豊橋と濱名湖北を結ぶ國鐵二俣線は、昭和十五年六月一日豊橋・二俣間の全通式を舉行し、東海道本線の一翼として時局下軍事産業運輸の重大使命の下に東海道線掛川驛との連絡完成し、豊橋驛は貨客の輸送に狹隘を告ぐるに至り、今や驛舎並に構内の擴張工事中である。

斯くて豊橋は忽ち四通發達の要地として急激なる都市的膨脹を來し、市民の産業生活・文化生活の發展充實に相應じて通信の繁盛を加ふると共に、又其の機關の整備と之れが利用及び取扱ひの敏速を要するは

當然のことである。

尙水運方面に於ては柳生川運河の完成に引續き、豊川改修並に豊橋港修築は目下着々進行中で、且豊橋港は第二種重要港に選定せられ次代への大きな飛躍が約束せられたことになり、更に豊橋市と濱松市とを結ぶ豊濱運河の計畫も近く具体化せんとしてゐる。之等完成の曉に於ける當市の發展誠に多幸なるものがある。

宗教教育

我が豊橋市の教育は輒近著しく進歩發展の域に達したけれども、一般の狀況に就き、殊に施設上のことに關しては未だ到底満足することが出来ないのである。本年三月末現在によれば、市内には縣立豊橋中學校・縣立豊橋第二中學校・市立商業學校・市立高等女學校・市立女子商業學校を始め、二十四の國民學校と補習教育のため設けられた市立第二商業學校と青年學校がある。此の外豊橋高等家政女學校・豊橋松操女學校・豊橋高等實踐女學校・愛知高等和洋女學校・豊橋盲啞學校・豊橋速算學校・看護婦產婆學校等の私立學校、豊橋幼稚園・花園幼稚園・小百合幼稚園等があり、此の外に市立圖書館・動物園、更に教育關係の事業を企畫實行し、又は直接教育の研究を目的とする市教育會並に教員協會がある。

次に財團法人豊橋育英會は昭和二年十月設立せられ、將來有爲の人材を養成する爲め廣く育英資金を募

り、學資の關係上廢學にならんとする者に貸費補給を爲し、更に進んで右補給生及び豊橋出身の學生の爲めに全國六大都市に寄宿舎を設立し、各自の負擔を減じ向學の便を圖つて居る。其の他生活の改善を高唱し、社會に貢獻する所極めて大なるものがある。其の外幾多の教育及び學術研究が行はれ、何れも相當効果を收めてゐる。

次には宗教方面であるが、豊橋市民の宗教心は果して如何に陶冶されてゐるであらうか、茲に之れを具體的に述ぶることは却々困難であるけれども、比較的正しい批判力の下に、自由信仰の態度を取つてゐる様に見受けられるのは、何んとなく嬉しい感じを起させる。而して本年四月現在市内に於ける神社の數は百十七社で、其の内縣社が二社、郷社が四社、村社が七十一社、無格社が四十社。尙寺院は總て二百二十六ヶ寺、之れを宗派別によると、曹洞宗一五十一ヶ寺、淨土宗一二十九ヶ寺、法華宗一三ヶ寺、眞言宗一六ヶ寺、天台宗一ヶ寺、臨濟宗一二十一ヶ寺と、外に眞宗大谷派本願寺別院の一ヶ寺で、其の他神道教會一四十三ヶ所、佛道教會・同說教所一九ヶ所、基督教會一六ヶ所と言ふ状態である。然し飽海時代即ち鎌倉期以前に於ける神戸（今の豊橋地方を言ふ）のものとしては、中八町縣社神社、羽田御厨のものとしては湊町の郷社神社並に葦御園のものとしては、東田町の郷社神社などが顯著なもので、尙飽海時代に創立された神社には關屋町縣社吉田神社・東八町八幡神社・花田町郷社八幡社・岩崎町村社神社・次いで岩田町村社神社・魚町安海態野神社・新錢町村社白山比咩神社・岩崎町村社鞍掛神社の八社あり。寺院には西竺寺・妙徳寺・正琳寺等があつたけれども多くは既に廢滅に歸し、今日遺跡の残つてゐるもの

は獨り正琳寺のみである。又建築の最も古いものを謂へば、寛文二年の建設に係る龍拈寺の鐘樓、次に延寶二年の建築で新錢町天神社の拜殿、それから貞亨二年で神宮寺の本堂、元祿二年龍拈寺の觀音堂、同六年で龍拈寺の樓門、同七年悟眞寺の本堂、同十年神宮寺の樓門、同年末淨圓寺の庫裡などである。淨圓寺の本堂は元祿以前の様に傳へらるゝが如何せん明確でない。外に神宮寺の護摩堂は寛永二十年、別院の鐘樓は同二十一年の建築であるが、何れも後世の修繕が著しく、原型を残してゐる部分は少ない様に考へられると同時に、之を純の藝術と誇るに足るものは殆んどない。

社 會 事 業

當市於ては從來より社會事業のあらゆる方面に亘り調査研究を爲し各種の社會施設が計畫實施されてゐる。而して何づれも其の成績見る可きものがあるが、支那事變を契機として産業機構に大きな變化が齎されたので市民の此の影響を受くるものも亦少くない。従つて社會事業に於ても時勢の推移と世相の變化に順應し有効適切なる施設を必要とするに至つて市としては各種施設に對する内容の整備と擴充を圖り其の目的達成に努めてゐる。

各種事業の施設中診療機關の設備は最も喫緊事である。市立豊橋病院、高山病院は既に設立せられ、一般治療はもとより輕費、無料診療を爲し逐年施設の改善に努め保健衛生の完璧を期してゐる。更に児童保

護には特に留意せられ常に各種の計畫研究が續けられ、其の中小兒健康相談所は乳幼兒の保健、育兒指導に又、豊橋方面事業助成會の經營にかゝる數ヶ所の保育園は、第二國民の保健と休位向上を促すと共に延ては家庭經濟の保護に當つてゐる。全て之れ等兒童保護事業は豊橋方面事業助成會の活動に待つ事多く、又斯くすることが最も近道であり効果的である様に思はれる。

與亞聖戰の目的達成に緊要なる銃後の援護は豊橋市銃後奉公會及び豊橋方面委員會等が目覚ましき活躍を爲してゐるが、此の他に社會施設として母子寮の設置が計畫中で銃後援に萬遺憾なからしめんと努力してゐる。

次に公設市場、公益質屋等好成绩を挙げ、此の他住宅建設助成が講ぜられてゐる。人的資源の涵養と生産擴充を急務とする刻下に在つては小住宅問題は一日も等閑に附せられない問題である。單に一時的に住宅難を緩和する等の微温的政策に満足せず、廣く社會政策的見地からして土地計畫や衛生其他の文化施設の整備も考慮せねばならない。それから社會事業の範疇外であるかも知れぬが近時諸統制の擴大強化により其の影響を最も深刻にそうして數量的に最も多く受けた中小工業者の轉失業問題に對しては豊橋商會議所商工相談所、商工奉仕委員、生活相談所、豊橋國民職業指導所等各其の役を擔ふて國策に協力す可く邁進してゐるが、之れのみを以つて万全を期し得ない事は勿論である、政治的にも社會的にも留意一層の對策を講ぜられん事が望ましい。

次に市の社會事業体系を示すと、

社會專業の概要

- 一、更生救濟
 - 方面委員
 - 方面事業助成會
 - 一、軍事援護
 - 銃後奉公會
 - 軍事援護相談所
 - 傷痍軍人相談所
 - 一、民族融和・協和會
 - 一、日本赤十字社愛知支部豊橋委員會
 - 一、愛國婦人會愛知支部豊橋分會
-
- 囑託少年保護司
 - 東三少年保護協會
 - 囑託保護司
 - 區司法保護委員會
 - 豊橋自啓會

社會專業施設

市立豊橋病院、市立高山病院、豊橋市公益質店、新川公設市場、松葉公設市場、國民職業指導所(國營) 豊橋無料宿泊所、行旅病人收容所、方面事業助成會經營にかゝる花ヶ崎保育園、羽田保育園、前田保育園、協和會豊橋支部經營にかゝる協和會第一保育園、全第二保育園、吉田方保育園、私立のものに下地幼兒園、東田保育園、向日保育園
日本赤十字社愛知支部豊橋診療所、愛知縣豊橋健康相談所、豊橋市小兒健康相談所、東三少年園、豊橋自啓會收容所、豊橋盲啞學校

輓近豊橋市及び接續町村の急激なる人口増加の趨勢並に商業の殷賑・工業の隆昌、其の市及び町村部落を通じ、蔚然勃興の機運を醸成せる産業の發展に伴ひ、人車の交通・貨物の集散愈々繁劇の度を加へ、随つて交通機關の整備改善は蓋し急務中の急務に屬するので、市當局は之れ等交通の狀態に鑑み、豊橋市を中心として各道路の改善、其の幹線の連絡並に主要鐵道停車場を連絡する主要道路の改善に關しては銳意之れを企圖すると共に、地方開發に必要な道路の改修を計畫し、時運に伴ふ施設を完ふせんことを頻りに研究調査を重ね、極力目的達成に努力した結果、東部商業地帯と西部工業地帯とを聯絡する跨線道路橋並に地下道の施設は完成し、更に前記連絡道を基本として築港地帯と聯絡し、以て郊外重工業地帯と市の外廓重要路線を聯絡して物資の集散に便するもの等、之れを都心地帯より放射すると共に、一面本市の玄關たる驛前廣場の擴築を行ひ、其の他須要路線の新設或は改築を行ひ以て市區の改正をなし、同時に交通系統の圓滑なる運用を期し、次に市を中心とする南北郊外に於ける重要施設は着々進捗しつゝあるが、之れに伴つて將來この方面が商工業地帯として飛躍的發展をなすであらうことを豫想され、且つ國防的見地からも一大都市計畫の實施を見んとしてゐる。

上水道は大正十五年六月三十日市會を経て諸般の準備を整ひ、昭和二年七月十八日起工式舉行以來月を閱する三十三にてし、工費二百六十有餘萬圓を以て完成を告げ、同五年三月二十九日通水式を行つたが、工事の概要は本市を環流する豊川の伏流水を水源とするものであつて、市内下條字西町三ノ下地先、同川

本流の河底に集水埋渠を構築し、同河畔の送水場唧筒井に導流し、同所より新設送水管路及び縣・市道を経て東南三十三町を距る多米町字小鷹野の濾過地に送り淨水となし、同所内の高揚唧筒で淨水場を距る東八十間の高地給水場内配水池に送り、是れより計量室を経て自然下法により市街地の給水區域に送り、將來人口増殖十六萬に達するも、送水及び配水管の増設並に相當附加工事を施すに於ては、給水に應ずべき設備である。

本市の地勢は東方より西方に向つて傾斜するも、市街地は概ね低地部に屬すると、市内街地では河川・溝渠の配置が尠いので排水不便であつて衛生上極めて不良で、傳染病患者數等も亦相當多いので、本市衛生改善の見地より不水道の計畫は焦眉の急を感じる所となつてゐたが、昭和七年一月より着手せられ昭和十一年三月竣工した。總經費三百七十四萬四千八百八十九圓といふ、當市にとつては未曾有の龐大な土木事業で、彼の上水道よりも五十數萬圓多い。下水の排水は牟呂用水路を境として一は柳生川へ、他は豊川へ放流せられる。其中、豊川に入る汚水は一旦處分場に於て淨化を行ふことになつてゐる。

尙、總費十七萬圓を要した市公會堂は、昭和六年八月其の竣工を見た。總建坪三百五十餘坪、其の近世式文化的設備と、其の壯麗なる様式とは永く豊橋市の誇りであり、更に皇紀二千六百年記念事業として市の東部に綜合運動場が計畫され總面積二萬七千坪で第一期事業たる競技場、野球場は既に竣工を見、市民の体育殿堂として各種の施設は近く完成されんとしてゐる。

名所舊蹟

今橋城—戸田・今川の争闘—家康と織田氏—
城主の交代—最後の藩主—吉田城跡

二〇

今の豊橋を吉田と稱へたのは天文年間から明治二年迄で、其の以前は今橋と謂つた。當時三河の國の守護は吉良氏であつたが、文明の頃に至つて牧野古白が此の今橋に築城したのである。然るに永正三年八月駿河の今川氏自ら軍を率ひて今橋城を攻めた。古白は城に據つて死守すること六十餘日、惡戦苦闘を續けたけれど力遂に及ばずして自殺するに至つた。是に於て城は一時田原城主戸田彈正憲光の一族、戸田金七郎の有となり、其の後大永の始め頃に至つて、古白の遺兒傳左衛門成之と傳藏信成の爲めに再び取り返された。程なく成之は隠居して信成其の後を襲つたが、享保二年岡崎の松平清康大舉して此の城に襲來し、信成は一族郎黨と共に下地に於て戦つたが武運拙くして遂に戦死し、城は一時松平氏の有に歸した。然るに天文四年吉田時代に至り、清康の守山崩れ以後は復び戸田金七郎の有となり、爾來十有餘年間舟形山一帶の山脈を境界として、戸田・今川兩氏の争闘が絶へなかつたが、天文十五年遂に今川義元の範圍に入つたのである。處が永祿三年五月桶狭間の戰に於て義元戦死した。其の時徳川家康はまだ松平元康と言つて今川方の味方であつたが、其の翌四年に至つて義元の子氏真との間に不和を生じ隣交は斷絶となつた。其の頃吉田城には今川氏の將小原肥前守鎮實が居つて、東三河に於ける諸將の人質を此の城に預つて居たが家康に屬したものは悉く龍拈寺口と言ふ處で殺して仕舞つた。家康が岡崎から大舉して此の城を攻めたの

は永祿七年の初めであるが、其の頃今の豊橋市の東部に當る仁連木にも城があつて戸田主殿介重貞が居つた。此の重貞も早くから家康に心を寄せて居たが、何分にも其の母が人質として此の城に容れてあつた爲め反旗を翻す前に先づ母を奪ひ戻さなければならぬと考へ、種々工夫した末に首尾よく目的を達した。家康は翌八年鎮實を亡ぼし、此の城を酒井左衛門尉忠次に與へた。斯くて程なく今川氏は衰へ三河は勿論遠江全國までも徳川氏の有に歸するに至つたが、其の代り今度は追々甲州から武田氏の侵入が始まつた。即ち元龜三年十二月信玄軍を率ひて遠江の三方ヶ原に於て戦つたが、此の合戦は徳川氏の大敗となつた。信玄は勢ひに乗じ更に三河に進入し、天正元年正月南設樂郡の野田城を陥れたけれど、此の戰の爲めに逝去するに至つたのである。然るに天正三年四月其の子勝頼大兵を擧げて仁連木城を襲ひ、續いて吉田城に迫つた。夫れから長篠の合戦となつたが、今度は武田方の大敗となり、之れが原因で天正十年三月織田信長と家康との爲めに根據を侵略されて、武田氏全く滅亡するに至つたのである。其の年六月織田信長は本能寺に於て明智光秀に殺され、之れより秀吉の舞台となつた。秀吉と家康は小牧山で一度戦ひを交へたけれど程なく相和し、天正十八年秀吉が小田原に北條氏を征伐したときにも、家康も國を明けて秀吉に捧げ自分も之れに従軍した。其の役の終つた處で家康は秀吉の爲めに關東へ移封せられたのである。此のときに忠次は既に隠居し其の子家次が相續して居たが、之れも家康に従つて上州碓井の城へ移つた。家次の後へ來たのは池田三左衛門輝政で、牛久保・新城・田原の三城も其の配下に屬し、知行十五萬二千石を領することゝなつた。仁連木城は此のとき廢止されたのである。然るに慶長五年關ヶ原の合戦後、輝政は功を以て播州姫路五十二萬石に封ぜられ吉田城を去り、其の後を繼いだのが松平玄蕃頭家清であつた。封祿三

萬石。其の後慶長十七年に松平主殿介利忠、寛永九年に水野隼人正忠清、同十九年に水野監物忠善と屢々城主の更迭があつたが、祿高は矢張り多い處で四萬五千石位のものであつた。正保二年小笠原壹岐守忠知城主となつたが、夫れより長矩・長祐・長重と四代の間繼續した。小笠原氏に次いで元祿十年久世出雲守重之が來たが、之れも在城十年にして寛永二年牧野備前守成春と交代した。成春の次は其の子大學英成で牧野氏に代つて此の地の城主となつたのは大河内氏である。大河内氏は正徳二年信親の時代に初めて古川から移封されて來たのであるが、享保十四年一度濱松へ轉封になり。之れに代つたのが松平豐後守資訓で之れも寛永二年になつて再び大河内氏と交代になつた。封祿七萬石。當時大河内氏は信親の代であつたが夫れから信禮・信明・信順・信實・信璋を経て信古に至つた。之れが最後の城主である。

仁連木城—其の來歴と宗光—重貞の戦死—
天正の戦—康長の戦功—

東田の北に朝倉川と言ふ小川が流れて居る。之れは蟬川の下流であるが、此の川に臨める高地に仁連木城の舊趾がある。此の城の來歴に就いて種々な説があるけれども、明慶年中戸田彈正左衛門尉宗光の築いたものであると言ふのが事實らしい。宗光が初め碧海郡上野の城に居たが、寛正六年五月徳川家康から七代目の祖に當る松平和泉守信光と共に室町幕府の命を受けて、三河國内の一揆を平定したことは蜷川親元の日記などにもあつて有名な話である。宗光は其の後居を渥美郡の老津に移し、更に一色氏の後を襲いで永正十三年の頃田原に根據を構へたが、其の後更に時を得て此の仁連木にも城を築き、田原をば其の子憲光に委ねて自分は此處に移つた。それは多分明慶初年の頃であると思ふ。宗光卒去の後は憲光及び其の次

男吉光も此處に居城した事實がある。其の後は此の城も暫らく放棄されてあつた様に考へられるが、天文十年に至つて憲光の曾孫に當る丹波守宜光が牛窪の加治村から之れを再興したのである。永祿七年吉田城から其の母を奪ひ返した主殿介重貞は即ち其の子であつた。重貞は其の年の十一月吉田城攻めに於て戦死したので其の後を弟の甚平忠重が襲いだ。然るに之れも又永祿十年五月病歿した。當時其の子の康長はまだ六歳の子供であつたから、一族の戸田傳十郎吉國と言ふ人が之れを扶けて陣代となつた。即ち元龜三年武田信玄の襲來に方つても天正三年五月武田勝頼の來攻に際しても共に吉國後見の時代であつたが、其の家臣等の奮闘によつて天正の戦ひには敵首十八級を得、以て家康の臺覽に供したと傳へられて居る。之れより先康長は松平の姓を賜はり、家康の同母妹久松氏に配したのであるが、後屢々徳川氏の爲めに戦功を立て、天正十八年家康の關東移封と同時に武藏國東方一萬石に封ぜられたのである。爾來仁連木城は遂に廢城となつて今日に至つたのであるが、今は大口喜六氏の所有地であつて一部農園となつてゐる。

豊川の清流—古名の色々—橋梁移轉—地子御免—
—貨物の運上—舊幕時代の姿—

豊橋の架つて居る川が即ち豊川である。其の源は北設樂郡段戸山に發し、南流して段嶺村を過ぎ作手川を容れて寒狭川となり、南設樂郡長篠村に至りて三輪川を合し、更に西南に流れて寶飯・八名・豊橋二郡一市の界を爲し、前芝村に至つて渥美灣に入るのであるが、延長凡そ十七里である。この河の古名を飽海河と謂ひ、後吉田川とも言つたが、近世一名姉川の稱があつたが併し此の名は餘り世に知られて居らぬ。昔、飽海郷と渡會郷との間に志香須賀と言ふ豊川の渡しがあつたが、地形の變遷が甚しいので今其の位置

が明かでない。元は此の名を然菅と書いたが、中世から白菅の字を訛用したるものと思はれるが、其の後又更に鹿菅なども書かれて居る。豊橋を渡れば市内下地町である。橋の此方が船町で、この町は池田輝政の橋梁移轉に依つて漸次發展を來したものであるが、船乗又は運送渡世の者が多かつたので、慶長五年關ヶ原の役には城主輝政の命を受けて伊勢の津又は松坂等へ往來したのである。夫れが縁故となつて爾來引續き藩主から船役を命ぜられ、地子御免の上此の河に輸入する貨物の運上を取ることを認められて居たのである。而も舊幕時代には此處以外豊川沿岸の地に湊を許されなかつたから、伊勢又は尾張地方に通ずる船舶は常に川下に輻輳して、船町の繁昌は著しかつたものであつた。

豊橋名代行事

笹踊 — 煙火 — 鬼祭

元祿時代と言へば誰も知らぬものはない江戸全盛の時であるが、其の驕奢な風は地方にまでも流れて來たので、彼の吉田の煙火なども此の頃から盛大になつた。勿論此の煙火は關屋町縣社吉田神社の祭禮に於て行はれたのであるが、元同社の神官であつた石田家の記録に依つて見ると、初めて建物（煙火の一種）の大きなものが出來たのは元祿十三年のことで、長さ十三間、幅三間半で其の費用は二十四兩かゝつたとしてある。舊幕時代には祭禮中本町の通行を禁じ市街に於て打揚げたものであるが、今は社前と豊川の水上に於て行つて居る。又同祭禮に要する本町の山車に幕の出來たのも元祿十六年のことであるとしてある

が、萱町から出る笹踊の装束も元は木綿の浴衣であつたのを元祿に入つて絹更紗染に改め、其の十七年に至つて緞子のものが出來た様子である。そののみならず、右の記録の中には其の笹踊を囃す爲めに大太鼓や小太鼓の打手の中に頗る名人が出來たと言ふことが詳しく記してある。吉田神社の祭禮は毎年七月十三日より三日間であつて吉田神社の風流を偲ぶ。十三日神前で行はれる大筒・手筒、十四日豊川の清流で打揚する打揚花火、十五日の笹踊は古への田樂の遺風で、十騎の武者行列・頼朝の姥・饅頭喰ひ等は今なほ此の祭に行はれる天下名代のものとなつてゐる。此の外豊橋市に於ける年中行事として主なるものは中八町縣社神明社の鬼祭である。此の社の例祭は毎年二月十四日・十五日兩日を以て行はれ、俗に之れを鬼祭と稱へて居るが、其の式は天狗の面をつけ烏帽子小具足を着けた武者が赤鬼を追ひ拂ふのである。此の外田樂の遺風である四天師のチンパ踊・笹良子のボンデンザラの神事を始め、黒鬼や榎玉争ひの神事、お頭様の渡御になる順序で、此の神事は極めて奇なる祭で全國に其の例を見ること稀である。

附近町村を探ねて

豊川・鳳來寺鐵道沿線—豊橋以西—豊橋以東—
渥美電鐵沿線—八名方面

我が東三河は古い歴史を有つて居るだけに、今尙王朝以來の遺蹟を始め室町期即ち群雄割據時代の城壘並に古戰場其の他武將の墳墓が到る處に見受けられる。先づ豊川鐵道の沿線では、小坂井町の東端に在る

風祭で名高い菟足神社、次には徳川氏の葵の紋所が起つたと言ふ由緒ある伊奈城趾、牛久保では今川義元並に舊一色城主一色刑部少輔の墓がある大聖寺、山本勘助の墓所で知られて居る長谷寺等あり、尙それから程遠からぬ處に牧野民部丞成定のために建立した光輝庵がある。牛久保驛より僅かに進むと豊川に達するのである。此處には吒枳尼眞天によつて天下に有名な妙嚴寺の稻荷と、外に三明寺の名蹟、縣立蠶業試験場豊川支場及び全陸上競技聯盟公認の大グラウンドがある。豊川稻荷の新本殿は三十有餘年前より計畫せられ、昭和五年四月漸く竣工したといふ甚た豪華なものである。國幣小社砥鹿神社は三河一宮驛を去る三丁ばかり東方で祭神は大己貴命である。次は長山驛で、砥鹿神社奥宮に鎮座する三河第一の高山本宮山は此處から頂上まで五十餘町である。尙この驛には會社直營の遊園地があつて四季遊客を喜ばしてゐる。東上驛附近に牛の瀧あり、直下六十尺、行路極めて平坦で驛から八丁、夏季は避暑客が多い。次は野田城驛で笛の名人村松芳休の嚶唳たる妙音に誘はれて武田信玄が狙撃せられた野田城趾へは僅かに五丁。更に新城驛に入ると菅沼定盈の墓がある。此の地は豊橋以北の小都會で、新城區裁判所・帝室林野局名古屋支局より五丁で櫻の名所櫻淵に至ることが出来る。豊川鐵道の終點は長篠驛で豊川・鳳來寺兩線の接続する所である。此の驛を距る十四町餘寒狭川・三輪川二流交叉の處に長篠古戰場址があつて、附近一帯は武田・徳川・織田三氏の古戰場である。長篠役は天正三年五月甲斐の武田勝頼が、家康の臣奥平信昌を此の地に圍みたるに起因す。此の時鳥居強右衛門の最後は人口に膾炙せる處であつて、その墳墓は今も鳥居驛より一町餘の寒狭川畔に存在してゐる。其の他この合戦に戦死せる甲將馬場美濃守信房・内藤修理亮昌壽・山

縣三郎兵衛昌景・其の他の墳墓は今尙この地を中心として附近に散在し、行人をして低徊顧眄の情に堪えざらしむるものがある。

鳳來寺の舊時を偲ばむとするものは、鳳來寺口で田口鐵道に乗り換へれば僅かに三哩で鳳來寺驛に至る山麓から本堂薬師如來迄は九町を登る。同寺は推古天皇の勅願により僧利修の開創せる處。天臺・眞言の二宗を兼ねて居たが、今は合して眞言一宗となり、極めて古い山緒を有つて居る。全山の風物總て壯觀を極めたものであつたが、數度の火災に逢つて今日舊態を存せず、僅かに樓門並に東照宮祠などが尙昔時の面影を留めてゐる。東照宮は慶安四年の創立で、後度々修繕を加へられてゐるが、尙明かに徳川初期の様式を見るべきものがある。殊に此の山は阿蘇火山脈の終點に位し悉く火山岩で構成され、極めて斷壁千仞の奇勝に富み、夏季は夕方から曉へかけて靈鳥佛法僧鳴き、遠方の地から杖を引くものが多い。尙この田口鐵道沿線は山寺の瀧・田峰の溪谷・東海一の長隧道・田峰の觀音・鹽津温泉・添澤温泉等勝景の地、遊覽の地に富んでゐる。

三河大野驛から行者越えに道を取れば鳳來寺へ最も近徑で、大野橋を渡ると八名郡大野町である。町はづれの天神山公園に不動瀧がある。此處から山吉田村阿寺迄は二里餘りで自動車の便がある。飛泉豊かな七折の瀧あり、高さ百二十五尺、阿寺の七瀧と稱し夏猶寒きを覺ゆる避暑地である。湯谷驛は所謂鳳來峽の中間で三輪川(板敷川)を隔てた對岸は縣道別所街道が坦々として北へのび、恰かも耶馬溪を見るが如き風趣をたへて居る。この流れに沿ひ小盆地から湧出づる温泉がある。これを鳳來泉と謂ひ萬病に效驗ありとて、驛は此處にホテルを經營し旅客をして心行くまで享樂せしむる。三河檜原驛は佳景に富み幾多

の風來峽名所がある。この地山深きに平地多ければ都人の別荘地として有望である。三河川合驛は本郷・御殿・振草を経て信州新野及び飯田に至ると、浦川中部を過ぎ久根銅山水窪に至る分岐樞要地點である。この驛から凡そ三十丁餘りで有名なる乳岩の巖洞我を呑むが如く眼前に迫る。更に登れば天空に聳ゆる雄大奇蹟たる天然石門に達す。其の美に打たれ茫然たらざる者はない。幾多巖層よりなる運峯の雅趣を一眸に收め、川合の村落は浮繪の如く眼界に入る。春の山を飾る石楠花・深山躑躅の咲き亂るゝ麗はしさ、夏の納涼・秋の紅葉に衣を染むべき地。この附近は多くの詩人墨客の杖を引くべき所である。更に開通を見たる三信鐵道を風來寺鐵道三河川合驛より接続して中部天龍を経て天下の絶勝天龍峽に沿ひて北伸し、天龍峽驛に於て伊那電鐵に連絡してゐる。されば豊川・風來寺・三信・伊那電の四社一體となつて中部日本を縦断して飯田市を経て中央線辰野驛に達するに至つた。

尙、東海道鐵道沿線豊川鐵橋の以西では、御油驛の縣社御津神社・大恩寺・御油海岸等で、蒲郡は元西郡と蒲形とを合せたもので、今は海水浴場の設けがあり、ホテル・料理店等完備し、風光頗る明媚にして夏季に各地から避暑に遊ぶ者が却々多い。名電で豊川を越え伊那驛へ入る。この附近は伊那城のあつた處で其の名を知られ、名電豊川線の分岐點であつて將來を囑目されて居る。國府は舊東海道で往時三河の國府があつた處で、同町の白鳥に總社があり、八幡村に國分寺と八幡社があつて、國府に關係淺からざるものである。西明寺入口の鷺坂等もよく知られて居る。八幡社の社殿は特別保護建造物で有名なるものである。八幡村より東北二里餘りの山中にある財賀寺は、聖武天皇の勅願により行基の開創した名刹である。赤坂驛は古來から紅葉の名所で知られてゐる宮路山に近い。宮路山は持統天皇の舊蹟であつて山頂の遠望天下

に絶し、春の蕨狩・秋の茸狩に佳く・長澤・山中・本宿は東海道古驛路で古くから知れてゐる。

次に東海道鐵道沿線を豊橋から東へ向へば、二川町の岩屋觀音・高師山・雲谷の普門寺・小松原の東觀音寺・鷺津の本興寺が歴史的に世上著聞の場所であるが、殊に岩屋觀音が其の最なるものであらう。それから八名郡方面では石卷山・石卷神社・本坂峠・嵩山正宗寺・月谷大洞窟等最も名ある處となつて居る。

更に渥美半島方面に於ては、名電渥美線の沿線小池町には潮音寺がある。曹洞宗に屬し行基の開創せるものと傳へられて居る。この寺の觀音は潮道の觀音と稱し舊來有名なるものである。串淺蜷の製造に於て有名な大崎へは小池町より約一里である。芦原驛より十丁程で野依毘沙門天へ行くことが出来る。清水驛附近には富士瓦斯紡績豊橋工場があり、老津谷熊・豊島の各驛より多賀壽命殿長仙寺の名刹へ何れも十三丁である。この寺は天平十七年行基の開創で現在の本堂は延寶九年頃の建築である。天白・神戸の各驛を経て田原に入ると、此處は明慶年間戸田宗光の築いた田原城址がある。田原藩の老臣にして書畫を能くし詩文に長じ、更に海外の事情に通じたる渡邊華山の墓は同町城寶寺境内にあつて、三宅氏の祖兒島高德を祀る縣社巴神社は舊城趾の一隅に鎮座するものである。又田原藩の執政で火技を研究し造船の法に長じ、後擧げられて藩政を掌つた村上藩政の墓も同町にあつて、片濱海水浴場へは同町より十八丁である。その神明社・阿志神社・長興寺・泉村鸚鵡・石福江町泉福寺・伊良湖岬石門・村松、豊川河口では神野新田・前芝など何れも三河の名所舊蹟として廣く紹介する價値がある。

商工業者人名

3	2	1	第六類 特殊商工業												25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12				
保險・代理	砂利採取・運搬・販賣	請負(土木・建築・電氣工事)													生	印刷用ローラー	蠟燭・線香	兔皮・兔肉	額縁	磨砂	刷毛	雲母	種子	刀劍	銃砲・火藥・煙火	龍製	弓・矢	漆器・佛具				
二〇〇	二〇〇	一九七													一九五	一九五	一九五	一九四	一九四	一九四	一九四	一九四	一九三	一九三	一九三	一九三	一九三	一九三	一九三			
22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4														
劇場・映畫	寫眞	旅館	有價證券買賣業	質屋	金錢貸付	紹介(藝娼妓看護婦)	周旋(土地・其他)	銀行	電氣鐵道	電燈・電力供給	自動車旅客運輸	牛馬車・荷車・船舶運送	運送・貨物運輸	揀元賣捌	瓦	土地・家屋買貨	倉庫	火災保險														
二二四	二二三	二二二	二二〇	二二〇	二〇八	二〇七	二〇七	二〇六	二〇六	二〇六	二〇五	二〇四	二〇三	二〇三	二〇三	二〇三	二〇二	二〇一														
																		37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23
																		藝妓置屋	貸座敷業	遊戯場	浴場	結髮業	理髮業	貿易商	セロファン加工	造船	オブライト製造	西洋洗濯業	無盡業	養鶏・種鶏・孵卵	驛賣店・構内立賣	石版・活版印刷
																		二二七	二二四	二二三	二二三	二二三	二二〇	二一九	二一九	二一八	二一八	二一七	二一七	二一六	二一六	二一四

8	7	6	5	4	3	2	1	第三類												25	24	23	22	21	20	19	18		
陶磁器・硬質陶器・タイル	石材・石材加工	左官材料・セメント・石灰	硝子器具・板硝子	薪炭	石炭・コークス・煉炭	藥品・藥類・染料・塗料・オブライト	油類	油・藥・染料・塗料・燃料・鑄製品・建築材料・木材・石材												百貨店	染物・洗張・悉皆・消防服	國旗・提燈	古着	履物・和傘	靴・鞆・馬具・軍用雜貨	鞆製造	袋物・眼鏡		
一四四	一四四	一四三	一四三	一四〇	一三九	一三六	一三五													一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	
7	6	5	4	3	2	1	第四類												15	14	13	12	11	10	9				
理化學器・醫療器・齒科材料	電氣機械・器具・ラジオ・電氣工事請負	農具	機械器具(製絲・精米・製材用)ミシン	時計・同附屬品・貴金屬	鐵工・鍛冶	金物・刃物・鋳力細工・理髮器具	金屬・同製品・機械器具・娛樂器具												線物・木管	桶・樽製造	割箸	折箱製造・薄板	木箱製造	木材・製材	竹				
一六九	一六八	一六七	一六五	一六四	一六〇	一五七													一五五	一五四	一五四	一五四	一五三	一四六	一四六	一四六			
11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	第五類												13	12	11	10	9	8	
古物・襤褸・屑物・古ボイラー	看板製作・塗裝・際物・裝飾	麻苧・漁網・ロープ・船具	疊製造・疊表・莖産	藤製品・乳母車	建具・家具・指物	荒物・雜貨	團扇・ボール函・荷札	印刷	紙類・帳簿	書籍・雜誌・文房具	其他ノ物品取扱業												寫眞器・同器具	玩具・運動具	樂器・蓄音器	車製造	タイヤ修繕	自動車修繕	自動車・オートバイ
一八九	一八九	一八八	一八七	一八七	一八四	一八二	一八〇	一八〇	一七九	一七七													一七五	一七四	一七四	一七三	一七三	一七〇	

羅 ラ 繩 納 摺 漬 造 倉 染 蕎 蕎
 ジ [ラ] [ナ] [ネ] [ツ] [ソ]
 紗 オ 豆 類 煮 船 庫 張 純

二 四 五 一 二 一 六 六 二 一
 ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ
 14 6 9 12 7 17 29 5 24 24

海 薄 兎 運 請 雲 乳 園 運 饅 鰻 魚 無 麥
 [ノ] 皮 送 負(土木・建築・電氣工事) 母 車・藤製品 扇 具 純 理 業 米・雜 穀
 苦 經 肉 送 母 品 扇 具 純 理 業 米・雜 穀

一 三 三 五 六 六 四 五 五 四 一 一 一 六 一
 ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ
 16 12 10 22 10 9 1 6 18 7 4 12 24 21 15 26 1

商 藥 軍 軍 線 扇 車 軍 扇 果 藥 乘 農 農
 取 品 服 服 線 物 車 用 用 物 物 物 合 具 業
 扱 種 [ヤ] 手 服 物 摺 貨 雜 貨 靴・袍 自 動 車 金 物 品
 業 [マ] 種 手 服 物 摺 貨 雜 貨 靴・袍 自 動 車 金 物 品

二 三 二 二 三 五 四 二 二 一 三 六 四 四 三
 ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ
 1 2 21 14 15 11 10 20 20 17 2 11 5 1 2

火 藥 鈹 砲 化 學 工 業 藥 品 籠 看 板 製 作 ・ ハ ン キ 塗 家 具 ・ 建 具 ・ 指 物 カ レ ン タ ！ 貨 座 敷 業 紙 唐 紙 玩 樂 鍛 金 瓦 硝 礮 傘 靴
 火 藥 ・ 鈹 砲 化 學 工 業 藥 品 籠 看 板 製 作 ・ ハ ン キ 塗 家 具 ・ 建 具 ・ 指 物 カ レ ン タ ！ 貨 座 敷 業 紙 唐 紙 玩 樂 鍛 金 瓦 硝 礮 傘 靴

五 三 三 五 五 五 五 六 五 五 四 四 四 四 三 三 三 二 二
 ノ
 15 5 2 14 10 6 4 36 2 2 12 11 2 1 8 5 1 22 10

浴 養 洋 洋 洋 洋 養 髮 活 株 金 貨 貨 瓦 家 火
 [タ] 鷄 物 裁 食 食 鷄 版 式 物 物 瓦 屋 災
 場 種 品 生 料 飼 印 問 自 運 土 地 保
 鷄 鷄 品 地 料 飼 印 問 自 運 土 地 保
 場 種 品 地 料 飼 印 問 自 運 土 地 保

六 六 二 二 二 一 一 六 六 六 六 六 六 六 六 六 六
 ノ
 34 25 16 14 14 23 1 33 23 19 17 9 9 7 6 4

煉 煉 種 橡 疊 疊 建 草 竹 太 足 玉 玉 卵 太 溜
 瓦 瓦 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子
 炭 瓦 土 管 瓦 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

三 三 五 三 二 五 五 五 三 三 二 二 一 二 四 一
 ノ
 3 8 17 14 12 8 6 6 9 8 16 2 3 14 11 9 11

魚 酒 蠅 蠶 砂 雜 雜 油 網 麻 荒 洗 雨 麻 油 青 船 船
 粉 穀 米 麥 粉 類 芋 物 張 眞 揚 物 菓 子
 具 糖 粉 麥 類 羅 雜 貨 物 具 田 豆 腐 物 葉 子
 具 糖 粉 麥 類 羅 雜 貨 物 具 田 豆 腐 物 葉 子

一 一 四 一 一 一 三 五 五 五 二 二 一 一 一 一
 ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ
 15 12 11 3 5 6 5 1 1 9 9 5 24 21 15 6 18 17 7 7

絹 絹 漁 生 絹 喫 牛 牛 指 材 雜 酸 左 裁 再 酒
 織 絲 製 茶 豚 乳 同 物 木 貨 素 官 整 場
 物 綿 網 造 皮 場 肉 控 家 製 荒 接 材 縫 糸 喫
 物 綿 網 造 皮 場 肉 控 家 製 荒 接 材 縫 糸 喫

二 二 二 二 二 一 一 一 五 三 五 二 四 三 二 二 一
 ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ
 12 11 10 12 9 3 17 16 25 14 26 6 10 5 16 2 6 13 5 25

綿 撚 弓 湯 有 遊 金 金 銀 際 漁 機 貴 木 揮 生 生
 業 絲 矢 屋 價 戲 銀 錢 物 網 械 金 箱 發 皮 絲
 業 絲 矢 屋 價 戲 銀 錢 物 網 械 金 箱 發 皮 絲
 業 絲 矢 屋 價 戲 銀 錢 物 網 械 金 箱 發 皮 絲

二 五 六 六 六 四 六 六 五 五 四 四 四 三 三 二 二
 ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ
 7 13 33 19 35 3 17 14 10 9 6 4 3 11 1 4 2

古 袋 太 豚 蒲 麩 結 藝 藝 下 劇 絹 化 鷄 絹 萬
 物 物 肉 團 麩 髮 娼 妓 馱 場 粧 卵 紡 年
 着 鏡 吳 牛 蚊 業 妓 置 映 品 鷄 紡 筆
 着 鏡 吳 牛 蚊 業 妓 置 映 品 鷄 紡 筆

二 二 二 一 二 一 六 六 六 二 六 二 二 一 二 五
 ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ
 22 18 12 14 9 18 33 16 37 21 22 10 17 14 4 1

國 小 吳 子 菊 昆 水 小 米 副 ア 佛 古 古 船 筆 文 鐵
 旗 間 服 供 菊 布 布 麥 蠶 蠶 道 道 船 房 力
 提 物 太 供 菊 布 布 粉 蠶 蠶 道 道 船 房 力
 提 物 太 供 菊 布 布 粉 蠶 蠶 道 道 船 房 力

二 二 二 二 一 一 一 一 二 五 五 五 五 五 五 四
 ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ
 23 17 11 14 18 16 10 5 1 4 19 12 11 11 9 1 1 1

電 電 電 電 鐵 蹄 映 驛 骨 糝 構 莫 古 コ
 氣 燈 氣 工 工 鐵 鐵 畫 賣 骨 糝 構 莫 古 コ
 氣 燈 氣 工 工 鐵 鐵 畫 賣 骨 糝 構 莫 古 コ

六 六 四 四 四 四 六 六 五 一 六 五 五 三
 ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ ノ
 13 12 6 6 2 2 22 24 11 4 24 8 11 3

石材・石材加工	七メント	石炭	染料・印	石版・油類	石油・油類	西洋洗滌	西洋料理	西洋洗滌	西洋料理	席貸	鮮魚・川魚	清涼飲料水	生花	生花	木管・緑物	毛筆	モートル・電氣器具
三ノ七	三ノ六	三ノ三	三ノ二	六ノ二三	三ノ一	二ノ一七	六ノ二七	一ノ二二	一ノ一九	一ノ一五	一ノ九	一ノ一四	五ノ二五		三ノ一五	五ノ一	四ノ四 四ノ六 四ノ四
			酢製・仕出し	酢製・造		線香	セロファン織物及テープ	セロファン加工	鉛具・ロープ・漁網	西洋家具	製材	製粉	製水	製本	製業	製絲	製米・用機械器具
			一ノ二〇	一ノ一		五ノ二三	二ノ一	六ノ三〇	五ノ九	五ノ六	三ノ一〇	一ノ五	一ノ一〇	五ノ二	二ノ三		四ノ四

仕出し・飲食	醬油・味噌	塩干魚	飼料・雜穀	織布	「シ」	ミシン販賣	ミシン裁縫	味噌・製	蜜造	味噌・醬油・溜	磨砂	「ミ」	銘木・床材	眼鏡・袋物	メリヤス・シャツ	
一ノ二〇	一ノ一二	一ノ一六	一ノ二	二ノ八		四ノ四	二ノ一三	一ノ一	一ノ六	一ノ一	五ノ二〇		三ノ一〇	二ノ一八	二ノ一六	
鹽元	殖産	砂利採取	種鶏	種子	銃砲・火藥	漆器・佛具	白木・製材	書籍・雜誌	寫眞機	自動車修繕	自動車・オートバイ	齒科材料	薪炭・コークス	悉皆・染物・洗張	仕立・和洋裁縫	
六ノ八	六ノ六	六ノ二	六ノ二三	二ノ一六	五ノ一五	五ノ一二	三ノ一〇	五ノ一	四ノ一三	四ノ八	四ノ八	四ノ七	三ノ四	二ノ二四	二ノ一三	
木材・製材	紋	モビール油・油類	モスリン・呉服	餅	「モ」	百貨店	日覆・防水マント	紐	肥	「ヒ」	人工肥料	寫眞	質屋	紹介(藝・娼妓・看護婦)	周旋土地	自動車旅客運輸
三ノ一〇	二ノ二五	三ノ一	二ノ一一	一ノ七		二ノ二五	二ノ一五	二ノ一二	一ノ三		六ノ二三	六ノ二一	六ノ一八	六ノ一六	六ノ一五	六ノ一一

第一類

穀類・飼料・肥料
飲食料品・料理

第一類

穀類・飼料・肥料・飲食料品・料理

商工業者人名

第一類 穀類・飼料・肥料・飲食料品・料理

1 米・雜穀

營業種目	住所	商號	氏名・名稱	電話番号
米 穀	關屋町	益	伊藤文三	二三六三
米・賃 搗 穀	福岡町	①	伊藤恒吉	四一八〇
米 穀	船岡町	信	伊藤信一	二七五〇
全 薪 炭	下地町字茶ノ木	梅	伊藤梅吉	五五一四
全 薪 炭	中世古町	米	伊藤彌八	三二六六
雜穀・飼料・肥料	牟呂町字松崎	榎屋	磯村彌八	三〇五九
米・雜穀・食料油	船岡町	大津屋商店	石原五郎	三三七六
全 雜穀・飼料	花田町字松山	石原精米所	石原龍次	四三五九
雜穀・飼料	全字狹間		石川喜一郎	五〇七八
米 穀	松葉町	伴	伴野乙吉	三三一三

卸、小

肥 料 下地町字豊中 ①
 鶏 糞・鶏 卵 花田町字後田 ②
 肥 料・養鶏飼料 關 屋 町
 全 ・製水・冷蔵 花田町字池田
 脫 脂糖・米糠油 北島町字高田
 製造肥料・飼料・蛹油 牟呂町字扇田

鈴 木 貞 吉 三二二六
 白 井 猛 四七一五
 合資會社内藤商會 二四二五
 日本水産株式會社 豐橋冷凍工場 三三八五
 株式會社光明麥精麥所 四三二九
 ヲ夕力産業株式會社 二一八三
 三七八〇

4 糀

製造、小 糀 花田町字松山
 全 ・甘酒ノ素 西 新 町 雪 吹 重 男 四二三八

5 粉類・製粉

製造、卸 粉類 西 八 町 ④ 大森商店 五〇一七
 全 ・製 麵 花田町字松山 ③ 柳 屋 三四五〇
 全 ・砂 糖 吉 田 町 柳 屋 四〇七四
 製粉・製麵・乾麵 東田町北臨濟寺 ⑤ 芳 賀 富 一 四〇七四
 製 造 全 煎 粉 中柴町字道六 森 平 廣 田 庄 三 郎 二七二二
 製 造、卸 粉類 西 八 町 ④ 大森商店 五〇一七
 全 ・製 麵 花田町字松山 ③ 柳 屋 三四五〇
 全 ・砂 糖 吉 田 町 柳 屋 四〇七四
 製粉・製麵・乾麵 東田町北臨濟寺 ⑤ 芳 賀 富 一 四〇七四

卸 製 造 全 ・小鳥飼料 魚 町 澤 田 屋 三二二〇
 煎 粉 中柴町字道六 森 平 廣 田 庄 三 郎 二七二二
 小麥粉・砂糖 花田町字城海津 明 治 屋 廣 瀬 正 治 郎 三〇三六
 全 紺 屋 町 洋 風 堂 鈴 木 兵 助 二四七八
 各種粉類 吳 服 町 合資會社山田屋商會 二五五一

6 砂糖

製造 砂糖・製粉 吉 田 町 柳 屋 四〇七四
 全 ・乾 物 魚 町 加 納 屋 二二六七
 氷砂糖・蜜 花田町字南新起 旭 永 糖 商 會 小 田 實 一 二六八二
 砂糖・味噌・溜 魚 町 旭 永 糖 商 會 田 中 新 實 一 五〇二七
 全 ・油・味噌・溜 新川町字新錢 米 代 田 中 村 代 助 二九〇九
 全 ・雜穀・雜貨 旭 町 字 旭 籾 村 代 政 助 四四四五
 砂糖・溜 花田町字松山 山 本 屋 山 本 丸 政 助 三三四六
 全 ・油 船 町 榎 本 民 平 四一三三
 全 ・石油・油 下 町 佐 野 屋 佐 野 菊 次 郎 二四〇三

砂糖・醬油・味噌
全・紙・雜貨
全・小麥粉
全・食品
全・水

淡町 江川屋
曲尺手町 富屋
花田町字城海津 明治屋
紺屋町 洋風堂
花田町字城海津 ① 鈴木兵助

五〇三六
二四二三
三〇三六
二四七八
三〇一九

7

菓子・煎粉・餅・餡・飴

製造、小 菓子 神 明 町 竹内菓子店 伊 藤 大 吉 巖
全・小間物・雜貨 東田町字五反畑 舟 織 屋 伊 藤 東 吉
菓子 旭 町 高 須 屋 伊 藤 安 一 吉
全 花田町字西宿 三河屋支店 伊 藤 安 一 吉
製造、卸、小 菓子 新川町字新錢 千代田園 伊 藤 晃 夫
全・カステーラ 新 錢 町 新 月 堂 伊 藤 盛 夫
全 松 葉 町 イトウ屋 伊 藤 盛 夫
製造、小 米菓・煎豆 花田町字東郷 山 田 屋 石 藤 峯 次
全 神 明 町 花 月 堂 今 井 ミ ナ
全 生菓子・餅・饅頭 下地町字東 お福餅 石 本 佐 賀 太 郎

二二七〇
二五四〇
四〇五六
三五四四
四八二六

製造 せんべい 東 新 町 ダルマ 秦 克 己
菓子・パン 花田町字映間 寶 月 堂 林 太 三
菓子 新川町字新錢 はりまや支店 富 田 王
全 東田町字五反畑 松 川 屋 外 山 四 子 男
製造、卸、小 菓子 花田町字石塚 新 富 屋 富 安 正 規
全 曲尺手町 三河屋清園 大 辻 太 平
全 花田町字大塚 富 田 屋 太 田 ま さ へ
全 全町字石塚 富 田 屋 大 須 賀 英 治
全 曲尺手町 大 須 賀 信 治
全 本 町 大 須 賀 信 治
全 全 尾 原 三 樹 雄
製造、卸、小 菓子 東小田原町 尾 原 三 樹 雄
菓子材料・煎粉 西小田原町 尾 原 一 雄
菓子 神 明 町 岡 田 惣 十
菓子材料・煎粉 新川町字新錢 岡 田 幸 市
菓子 旭 町 字 旭 橋 本 屋 岡 本 竹 次
全 菓子 旭 町 字 旭 橋 本 屋 岡 本 竹 次
製造 餡 清水町 内藤製餡所 小 澤 銀 治 郎

五二二一
五五三四
二五五五
二二三四
四六六四
四一三四
三九七一
四五二二
四九九七

製造、卸
製水・冷蔵
食料品
花田町字池田

11 酒・味噌・溜・醬油

卸、小	酒	全	味	西新町	三河屋	井出	二〇八三
製造、卸、小	全	味・味噌	前田町	伊藤金一郎	三五六四	伊藤喜代太郎	三九三三
製造、卸、小	全	味・味噌・醬油	牟呂町	伊藤政男	三九三三	伊藤英一	五〇六四
製造、卸、小	全	味・味噌・飲食	花田町字大塚	岩間伊七	五一一九	磯部豐太郎	三五一四
製造、卸、小	全	味・味噌・溜	下地町字豐麻	市橋半一郎	四五五五	石原重助	三五一四
製造、卸、小	全	味・味噌・溜	花田町字東郷	石川源助	四五五五	石川傳三	五二九一
製造、卸、小	全	味・味噌・溜	三ノ輪町東郷	今川伊三郎	四五五五	今川伊三郎	五二九一
製造、卸、小	全	味・味噌・溜	東田町北臨濟寺	花井一義	四五五五	花井一義	五二九一
製造、卸、小	全	味・味噌・溜	全町字西脇				
製造、卸、小	全	味・味噌・溜	全町字西宿				
製造、卸、小	全	味・味噌・溜	三ノ輪町白山				

大正製水冷蔵株式會社
日本水産株式會社豐橋冷凍工場

卸

酒	全	雜貨	向山臺町	會	畑中富之進	
全	味・味噌・溜	新川町字新錢	田島屋	波多野德三郎	二九三二	
全	味・味噌・保險	松葉町	可早川商店	早川幸作	四八七〇	
全	味・味噌・醬油	小池町	可早川分店	葉山	二五二六	
全	其	松葉町	三河屋	伴隆次	三三一二	
酒	全	其	吳服町	堀部吉五郎	四〇七二	
全	撻糸	花田町字寺東	五	堀部密雄		
全	撻糸	富本町字東郷	力	鳥居龜吉		
全	味・味噌・溜	東八町	福島屋	德島政次	二六三一	
全	味・味噌・溜	北島町	父	小野田嘉市	五三二三	
全	味・味噌・溜	柳生町	知	大井		
全	味・味噌・溜	前田町	大	荻原榮吾	三六三七	
全	味・味噌・溜	牟呂町字市場	大	岡川一治	三七九三	
全	味・味噌・溜	舟原町	大	小田政一	三五五二	
全	味・味噌・溜	瓦町字通	小田商店	大岡忠男		
全	味・味噌・溜	北島町	大岡屋			
全	味・味噌・溜	談合町	大岡屋			

製造、卸、小

全	味・噲・溜・雜品	西八町	大野屋	大野鷹雄	三九五八
全	味・噲・溜・雜品	中柴町字道六	大野屋	大野松一郎	四〇一三
全	味・噲・溜・雜品	牛川町字南郷	三喜野屋	大桑喜三郎	五二五八
全	味・噲・溜・雜品	中世古町中世古	岡田屋	岡田喜作	二六七〇
全	味・噲・溜	西新町	山彌商店	河合彌太郎	二六七〇
全	味・噲・溜	下地町字東	岡田屋	加藤太一郎	三七〇五
全	味・噲・溜・醬油・乾物	富本町字東郷	一川屋	河合國次郎	三九二三
全	味・噲・溜	瓦町字通	食	龜井淺吉	二八一七
全	味・噲・飲料水	花田町字稻場	今文	金子勇次郎	二五三六
全	味・噲・醬油	東田町字五反畑	新金子	金子七雄	二七三九
全	味・噲・醬油	上傳馬町	山内支店	神谷壽美松	三八〇三
全	味・噲・醬油	前田町	吉田屋	吉田季次	三七八七
全	味・噲・醬油	旭町字餌指	高橋酒店	高橋晴夫	三七八七
全	味・噲・醬油	柳生町	高橋民十郎	高井勝次	三七八七
全	味・噲・醬油	旭町字旭	高橋酒店	高井勝次	三七八七
全	味・噲・醬油	新川町字市南	高橋酒店	高井勝次	三七八七

卸、小	酒・味・噲・溜	魚	田新	田中	田新	五〇〇二
卸、小	酒・味・噲・溜	大崎町	田新	高柳茂助	田新	五〇〇二
卸、小	酒・味・噲・溜	旭町字餌指	田新	園部	園部	三六二二
卸、小	酒・味・噲・溜	前田南町	田新	都築豐吉	都築豐吉	四九二四
卸、小	酒・味・噲・溜	上傳馬町	田新	根木	根木	五二一九
卸、小	酒・味・噲・溜	小吸町	田新	夏目良平	夏目良平	五二一九
卸、小	酒・味・噲・溜	西八町	田新	夏目直作	夏目直作	三九七七
卸、小	酒・味・噲・溜	船八町	田新	夏目重次郎	夏目重次郎	四六〇八
卸、小	酒・味・噲・溜	手間町	田新	仲村良穗	仲村良穗	三五三七
卸、小	酒・味・噲・溜	魚	田新	仲村家隆	仲村家隆	二一二九
卸、小	酒・味・噲・溜	新川町字新錢	田新	仲村代助	仲村代助	二九〇九
卸、小	酒・味・噲・溜	松葉町	田新	中村廣吉	中村廣吉	二二五二
卸、小	酒・味・噲・溜	新川町字市南	田新	中村信一	中村信一	二六一二
卸、小	酒・味・噲・溜	旭町字旭	田新	中野喜代男	中野喜代男	二五二二
卸、小	酒・味・噲・溜	船	田新	中野喜代男	中野喜代男	二五二二
卸、小	酒・味・噲・溜	東田町北臨濟寺	田新	中島福藏	中島福藏	三八五〇

全・味噌	東小田原町	明治屋	仲谷	二〇四六
酒・味噌・砂糖	船		内柴	
全・溜	松葉町	富岡屋	山崎	二四二九
全・酒	神明町	大津屋	山口	
溜・砂糖	東新町	富岡屋支店	山崎彌之助	二七二〇
酒・醬油・味噌	花田町字松山	山本屋	山本	三三四六
全・雜貨・桑周旋	新川町字新錢	野田醬油	山本道雄	四五二六
味・噌・溜	松葉南町	豐橋販賣所	牧野	四一〇三
全・溜	牛川町中郷	牧野屋	野鹿次郎	
酒・溜	花田町字野黒	下條屋	松井	二一六一
全・酢	佐藤町字北島	丸豐	松井初太郎	二一六一
全・味噌	牛川町字東郷	孟宗屋	福尾秋太郎	五〇八二
全・醬油・牛豚肉	西小田原町	福井保商店	藤井信太郎	二八八〇
全・味噌・醬油	船	仲六小賣部	福井	三七一三
全・醬油・味噌	曲尺手町	荒古屋	菰田幸吉	四〇二五
	花田町字流川		小林	三九二二
	手間町		小林彌八	三六三三

全・醬油・味噌	東小田原町	島田屋	出口勘十郎	三六一一
全・洋酒	松葉町	青山酒店	青山嘉一	四七六八
酒・味噌・醬油	下地町字豊麻	伊賀屋	皿井辰次郎	五五三六
全	花田町字狭間	旭屋商店	齋藤	三三〇八
全	中柴町字中柴	福岡屋	佐藤	二八三二
全	關屋町	魚富	酒井	五二二五
全	花田町字寺東	橋本屋	笹潮源一郎	四〇五七
全	瓦町字通	木島商店	木島	四七〇四
酒・味噌・醬油	南小池町	キマタ	木俣孝司	四四〇四
全	東小田原町	木俣商店	木俣駒二	五〇三六
味・噌・溜	湊町	江川屋	金原	二五七六
酒・醬油	東田町字前畑	フジト屋	宮林	五二〇〇
全	西八町	龜甲屋	繁原彌代	四四三九
全	吳服町	伊勢元酒店	島田	五三〇〇
全	花田町字西宿		神藤	
全	手間町	八百神酒店	神道	
全	東田町字五反畑	永田屋酒店	平尾光次	五三〇一

卸、小

全・味噌
味・溜・酒
酒・溜
酒・醬油・味噌

松葉町
中世古町
松葉町
全町
花田町字大塚
紺屋町
清水町
東新町
魚町
下地町字東
富本町字東郷
花田町字齋藤
全町字南新起
全町字東郷
札木町
東田町字西脇
神明町

金子支店
大津屋商會
正山内支店
一星森田屋
森田屋酒店
三河屋
杉浦商店
杉八商店
大橋屋
鱸屋酒店
赤西屋
大津屋
鈴木屋
平尾富士雄
樋田清
廣田安吉
森田千代吉
森田昇
森下延一
仙河六郎
杉浦慶治
杉田英一郎
杉浦泰次
鱸次
鈴木春一
鈴木吉次
鈴木佐市
鈴木繁太郎

卸、小

全・味噌
酒・味噌・溜
全・味噌

全町
花田町字大塚
紺屋町
清水町
東新町
魚町
下地町字東
富本町字東郷
花田町字齋藤
全町字南新起
全町字東郷
札木町
東田町字西脇
神明町

森田昇
森下延一
仙河六郎
杉浦慶治
杉田英一郎
杉浦泰次
鱸次
鈴木春一
鈴木吉次
鈴木佐市
鈴木繁太郎

卸、小

全・味噌
全・味噌・醬油
全・味噌

全町
花田町字大塚
紺屋町
清水町
東新町
魚町
下地町字東
富本町字東郷
花田町字齋藤
全町字南新起
全町字東郷
札木町
東田町字西脇
神明町

鈴木春一
鈴木吉次
鈴木佐市
鈴木繁太郎

卸

卸、小

全
酒
味・溜
酒・ビール
味・味噌・醬油
酒・味噌・醬油
和洋酒・食料品・洋食材料

中柴町字道六
下地町字東
新川町字新錢
花田町字西宿
西小田原町
魚町
札木町

正鈴木屋
鈴木清
鈴木正司
鈴木清十
野田醬油株式會社豐橋販賣所
株式會社川清商店
合資會社吉川商店
合資會社牧野商店
合資會社伊藤菊次商店

12

酒・味噌・溜・醬油・酢醱造業

溜・酒釀造
味・溜釀造
溜・味噌釀造
溜・味噌・酢
納豆釀造
酒・味淋釀造
酒釀造
醬油釀造

小池町字角田
花田町字五丁
船町
全町
下地町字豐麻
花田町字百北
南榮町字空池

市川儀市
市橋半一郎
今川伊三郎
服部彌八
永井仙十
中村平吉
大竹子

三一

製造、卸、小

味噌・溜醸造	花園町	天	大山銀藏	二五〇
味噌・保險代理業	曲尺手町	余	内藤要三郎	三三八〇
全・溜醸造	新錢町	太	内藤齋平	二四二四
酢醸造	下地町字東	金	中村金八	三九九〇
味噌・醬油醸造	植田町字車塚	平	浦川重右衛門	四二三〇
酢醸造	北島町	平	近藤麻二	二五三九
味噌・溜醸造	曲尺手町	木	木村廣	二六一七
味噌・アミノ酸醬油醸造	野田町	宮	宮津隆二	五三四二
味噌・溜醸造	往完町	白	白井金重	
全	牟呂町字桶口下	桑	平野彦太郎	三五六〇
味噌・醬油醸造	全町字市場	丸	井ヅヘイ醬油合資會社	二二二九
全・納豆	船町	名	市川味噌溜醸造株式會社	二二二九
全・溜醸造	小池町字角田	屋	合名會社 伊勢屋商店	五一四五
酒醸造	花田町字齋藤	伊	報國醬油株式會社	三四三五
醬油醸造・食料品	野田町	勢	合名會社 小田商店	二〇五〇
味噌・溜醸造	横須賀町	屋	合資會社 田新醸造部	
全	關屋町	合		

三二

卸、小

酒醸造	花田町字守下	仲	合名會社 仲六商店	五〇〇六
酒・味噌・醬油	西新町	六	合資會社 服部伊賀屋商店	二二五七
味噌・溜醸造	花田町字齋藤	大	大津屋株式會社 豐橋工場	二九一八
葡萄酒製造	老松町	津	合資會社 柏屋商店	

13 茶・茶道具

茶	松葉町	森	小野田五平	二九三六
全・茶道具	曲尺手町	業	太田おを	
茶	神明町	兵	倉橋保次	四八八六
全・茶道具	札木町	藤	兵藤義一	
茶製	大清水町	清	清水清次	

14 牛豚肉・鶏肉・生鳥・鶏卵

牛豚肉	船町	吉	伊東九右衛門	四八六九
全・料理	松葉町	野	花井與市	二七四九
全	花田町字守下	井	落合吉松	

三三

卸、小

全

鮮

關屋町

三

合資會社白井商店
三三六六
日本鵜卵販賣株式會社
豐橋出張所
四四八五

15

鮮魚・川魚

卸、小

全

鮮

花田町字西宿

介

伊村半次郎
三八三七
市川正男
呼二二六九
乾川虎實
四二九〇
今泉吉
三六二八
石川宮吉
四三三九
犬塚太七
三二五七
岩見初次郎
五二一四
井本重治
三六三七
伴林政一
五二〇六
大羽敏正
二四〇六
兼子乙治郎
四二三七
河合幸作

卸、小

全

鮮

花田町字狭間

刃

加藤甚八東
二四一三
高井藤吉
四五六九
田邊嘉市
三〇七一
田邊玉次郎
五〇九六
竹本善助
四九八〇
竹內藤吉
四九〇三
瀧崎吉次郎
二四〇四
中根平一
五三七九
中村常市
三三三五
中村重治郎
四七八六
中村壽惠吉
五二二九
熊本政治
二五四一
山田實

卸、小

全

鮮

高師石塚町

下

竹森菊次郎
四九八〇
竹內藤吉
四九〇三
瀧崎吉次郎
二四〇四
中根平一
五三七九
中村常市
三三三五
中村重治郎
四七八六
中村壽惠吉
五二二九
熊本政治
二五四一
山田實

製造、卸、小

全

鮮

牟呂町字市場

中

中村重治郎
三三三五
中村壽惠吉
四七八六
熊本政治
五二二九
山田實

卸、小

全

鮮

瓦町字通

魚

熊本政治
五二二九
山田實

卸、小

全

鮮

紺屋町

魚

熊本久吉
二五四一
山田實

全

鮮

机木町

魚

山田實

三七

全	卸	全	卸	全	卸	全	卸	全	卸
鹽干魚	海產物	竹輪	竹輪・蒲鉾	鹽干魚	海苔問屋	海苔問屋	海苔問屋	海苔問屋	海苔問屋
旭町字餅指	東小田原町	新川町字新錢	花田町字松山	關屋	關屋	關屋	關屋	關屋	關屋
八百源	三米	赤	下	命	命	命	命	命	命
合資會社三米本店	合資會社三米本店	合資會社三米本店	合資會社三米本店	合資會社三米本店	合資會社三米本店	合資會社三米本店	合資會社三米本店	合資會社三米本店	合資會社三米本店
呼三九二七	呼三九二七	呼三九二七	呼三九二七	呼三九二七	呼三九二七	呼三九二七	呼三九二七	呼三九二七	呼三九二七

17 漬物・佃煮・罐詰

全	卸	全	卸	全	卸	全	卸	全	卸
漬物・佃煮	漬物・佃煮	漬物・佃煮	漬物・佃煮	漬物・佃煮	漬物・佃煮	漬物・佃煮	漬物・佃煮	漬物・佃煮	漬物・佃煮
松葉町	松葉町	松葉町	松葉町	松葉町	松葉町	松葉町	松葉町	松葉町	松葉町
名物屋	名物屋	名物屋	名物屋	名物屋	名物屋	名物屋	名物屋	名物屋	名物屋
落合千之	落合千之	落合千之	落合千之	落合千之	落合千之	落合千之	落合千之	落合千之	落合千之
合資會社山加加藤長平商店	合資會社山加加藤長平商店	合資會社山加加藤長平商店	合資會社山加加藤長平商店	合資會社山加加藤長平商店	合資會社山加加藤長平商店	合資會社山加加藤長平商店	合資會社山加加藤長平商店	合資會社山加加藤長平商店	合資會社山加加藤長平商店
三五六二	三五六二	三五六二	三五六二	三五六二	三五六二	三五六二	三五六二	三五六二	三五六二

四三

四二

製造、卸、小
 卸、小
 青物 煮 松葉町 原田屋 原田多久市
 青物 花田町字五丁 谷川玉次郎
 青物 西小田原町 堀内光治
 青物 花田町字稻場 富安利二
 青物 吉田町 ミツヤマ 鳥居千代吉
 青物 新川町字市南 大ッヤ 大津勘吉
 青物 湊町 落合一郎 三七一六
 青物 旭町字旭 森 大津茂郎 三五三二
 漬物 花田町字齋藤 落合三郎 四九五八
 青果物・薪炭 東田町字五反畑 岡村保一 呼三七三七
 青果物 花田町字石塚 小柳津治 四二六二
 全 柴町字中柴 大 小野廣次 四二六二
 全 北島町 小 渡邊淺次郎
 全 花田町狭間 源 渡邊次郎
 全 曲尺手町 令 壁谷連
 全 花田町字野黒 全 町字百北

製造、卸、小
 卸、小
 青物 全 町字守下 吉田屋 加藤梅吉
 青物 全 町字西宿 元 大津屋 川瀬與三郎
 雜物・穀・味の素 船 東小田原町 加藤發太郎 二四二二
 全 花田町字稻場 加藤源吉
 全 中八町 加藤源吉
 全 手間町 吉田米治
 全 船町 高井靜
 乾物 萱町 豐年屋 高橋謙三 三六五四
 青果物 松葉町 竹康果實店 竹本實三 三六五四
 全 花田町字稻場 寺澤屋 高橋實三 三六五四
 全 南榮町字蟹原 寺澤屋 小林勝 三六五四
 全 松葉町 寺澤屋 小畑正吉 四二〇九
 佃煮 牟呂町字市場 會野和吉 四三五二
 青果物 中柴町字道六 谷野和吉 四三五二
 青果・佃煮 西新町 會野和吉 四三五二

食	堂	・うどん	花田町字西宿	みうらや	八木丈治	三七三四
す	し	し	下	入口屋	松井たかの	二七七六
飲	食	・すし	松葉町	スシマツ	松山徳松	二九二六
すし	・仕出し	・料理	札木町	常盤ずし	藤田與四郎	二九二六
飲	和洋料理	食	松葉町	どんたく	藤田た	三三七八
す	し	し	紺屋町	大手食堂	小久保元代	三三七八
仕出し	・鮮魚	し	東田町字前畑	◎	小林	二九五〇
食	堂	魚	上傳馬町	◎	安藤善一	三三〇七
飲	食	堂	花田町字西宿	壹屋饅食堂	安井富美子	三三〇七
すし	・喫茶	食	全町字西宿	東洋、都すし	青木武雄	四一一一
飲	食	・食堂	松葉町	久松	浅井常尙	四二四二
西洋料理	・饅	堂	關屋町	青木屋	赤木徳子	五二八九
す	し	し	上傳馬町	都すし	榊原延敏	二三五二
飲	食	し	湊	高砂	笹野富吉	
全	食	し	南榮町		佐原光治	
お	で	ん	松葉町		岸	

す	し	し	中柴町字道六	お徳すし	宮本鶴松	四六七八
仕	出	し	新錢町	魚せき	水野匡榮	三六五五
飲	食	・辨當	富本町字國隠	芳野屋	三浦新一	四六四四
和洋料理	食	理	東田町字五反畑	大門食堂	水谷福江	三二八一
飲	和料理	・酒	新川町字市南	金時	三輪野佐和治	
飲	辨當	・飲食	本	あづま	清水梅太郎	呼二四一二
仕出し	・鮮魚	食	松葉町	一蝶	清水きくの	四七七五
飲	料	理	草間町字上原	◎	兵藤香一	
仕出し	・饅料理	・料理	花田町字西宿	◎	彦坂三治	
飲	和洋料理	食	全町字西宿	◎	廣井泰助	
仕出し	・料理	・壽司	上傳馬町	第二澤ノ鶴	望月愛子	二一八五
飲	和洋料理	食	松葉町	山喜知	鈴木吉太郎	二四三九
支那料理	理	食	神明町	小	鈴木勝馬	四〇二六
和洋料理	理	食	札木町	港ずし	鈴木勝義	二七七九
支那料理	理	食	東小田原町	三福支店	鈴木敏次	四一三六
支那料理	理	食	萱	三福食堂	鈴木嘉次	二二〇六
支那料理	理	食	松葉町	ミス上海	杉浦今次	二五一九

壽司	松葉町	すし兼	杉山兼次郎	三四三七
すし・もち	花田町字城海津	たこずし	鈴木富次	
すし	船		鈴木正男	
しるこ・惣菜	松葉町		鈴木金吉	
飲	全	美登勢	鈴木とせ	
氷しるこ・洋品雜貨	全		鈴木延藏	
洋食・壽司	札木町	借樂亭	合名會社借樂亭	二五八三
和洋料理	花田町字西宿		株式會社豐橋大門	三〇〇六

21 鰻料理

鰻料理	松葉町	のぼりや	片山玄づゑ	二三五七
鰻料理・料理	札木町		中山要吉	二七四五
鰻料理	花田町字石塚	新青木	青木浦太郎	三八一六
鰻料理・料理	上傳馬町	青木屋	青木きん	五二八九
鰻料理	神明町	小喜林	鈴木勝馬	四〇二六
全・料理	松葉町	山喜知	鈴木吉太郎	二四三九
全・驛構内立賣	花田町字西宿	壺屋	合資會社 壺屋辨當部	三三〇七

22 西洋料理

西洋料理	船	吉野屋	伊藤九右衛門	四八六九
和洋食	花田町字狭間	大だるま	伊藤藤操	四七七六
西洋料理	松葉町	公園食堂支店	稲垣隆雄	四二九二
全・牛豚肉	中八町	公園食堂	稲垣はつ江	四〇四一
西洋料理・しるこ	松葉町	花井バ	花井與市	二七四九
西洋料理	吳服町	大手しるこ	新村武	四四六七
全	宮本町字東郷	キンバト	大羽あさ子	
食	清水町	寶來亭	屋田義雄	
西洋料理・うどん	松葉町		加藤多賀夫	
西洋料理	西小田原町	成瀬食堂	高木喜市郎	五二二三
全	東田町字五反畑	吾妻亭	中山やい	二六一六
和洋料理	札木町	森永喫茶店	中山東一	四八〇三
全	東田町字五反畑	北濱屋	山本こ玄う	三四二六
全・牛豚肉	旭町字旭	榮屋	古橋朝次郎	二三七五

西洋料理
 本町 光富久
 上馬町 富士
 松葉町 山喜知亭
 全町 喜松亭
 花田町字西宿 有樂軒
 全町 吉田食堂
 富本町 富本食堂
 札木町 借樂亭
 和洋料理・喫茶
 花田町字西宿 大門
 合名會社 借樂亭
 株式會社 豐橋大門
 六八

23 食料品・洋食器

食料品・罐詰製造
 北島町 東亞
 洋食料品・食器
 札木町
 食料品・佃煮・海苔
 魚町 安
 食料品
 札木町
 東亞食品株式會社
 合資會社 伊藤菊次商店
 合資會社 山安食料品店
 合資會社 水野商店
 四四七三
 三五一五
 四一五三
 二二〇六

食料品冷凍業
 ハム・ソーセージ
 煉乳製造
 花田町字池田
 植田町字八尻
 日本水産株式會社 豐橋冷凍工場
 中央製乳株式會社
 二三八五
 四三二九
 五五二四

24 餛飩・蕎麥

餛飩・蕎麥
 船町 川崎屋
 中柴町字中柴 島田屋
 西八町 みどりや
 船町 川崎屋
 新川町字市南 林屋
 松葉町 勢河
 全・菓子
 鍵田町 勢河
 全・料理
 神明町 東京庵
 花田町字狭間 大崎屋
 全・石塚 菊屋
 東田町字東前山
 湊町 千樂
 岩瀬しず
 伊藤貞次郎
 岩崎りつと
 岩瀬安夫
 林富作
 新美和儀
 西山克巳
 戸倉之つ
 補永連
 鳥居市五郎
 星野やゑ
 小野田源次郎
 四六三八
 三四一六
 二五八七
 四六七八
 三三六〇
 三四四四
 三六二三
 四八一九
 六九

煉乳製造	全	全	全	全	全	全	全	牛乳搾取
植田町字八尻	山田町字瀬戸	前田南町	花田町字八通	牛川町字南臺	岩屋下町	瓦町字通	三ノ輪町本興寺	小池町字上田
		中尾牧場	至					昭和園
中央製乳株式會社	八木 歙次郎	中尾 淺次郎	夏目 磯太郎	高橋 哲	加藤 福男	小笠原 八百三	小野 龍三	西山 正一郎
五五二四						三二五四		二五二一

七四

第二類

纖維商工業・被服・同材料及附屬品
 裝身具・染色

第二類

器具・染工
織維商工業・被服・同材料及附屬品・裝身具・染色

第二類 織維商工業・被服・同材料及附屬品・裝身具・染色

1 繭取扱業

營業種目	住 所	商 號	氏 名・名 稱	電 話 番 號
繭取扱業	萱町	ト	伊藤 条藏	三二七五
全	吳服町	◇	今泉 美登	二三二五
全	松葉町	㊦	今井 富郎	四〇〇七
全	吉屋町	㊦	石田 源四郎	二〇六三
全	松葉町	㊦	石塚 晴久	二八三九
全	花田町字石塚	㊦	岩田 準一	五四三〇
全	吉屋町	トキ	石鉢 カツ	五四三六
全	手間町	㊦	西川 藤四郎	五四三六
全	指笠町	㊦	織田 龜次郎	五三一四
全	上傳馬町	小	小野 彌六	二三三三
全	花田町字石塚	父	小野 田又七	二七四三

生絲製造

生絲製造

北島町 前田町 談合町 旭町字旭 東新町 旭町字旭 花田町字後田 全町字十文字 全町字塞神 向山町字南下畑 飯村町字西山 前田町 旭町字旭 旭町字塞神 三ノ輪町本興寺 花田町字流川

并 井坂重太郎 池田常平 池田貞三郎 袴田八三郎 伴孫平 堀西右工門 堀田志奈爾 鳥居昭夫 戸田はつ 外山仙太郎 富永峯治郎 大武みつ子 大谷利一 大林正志 大久保文助 大久保福三郎

四三五四 二九四一 三六〇三 四一八六 三二〇五 四二四四 三九三七 五五三三 四三二五 五四四八 二六一〇 二四五八 二一八二 二〇二六

八二

生絲製造

瓦町字南裏 北島町 吉田町 往完町 往完東 花田町字大山塚 全町字百北 東田町字北蓮田 小暖町 花田町字百北 旭町字旭 小暖町 東小田原町 花田町字中郷 向山町字下畑 花田町字流川 花田町字百北

昭和組 尾崎連 會 小川留松 小川進 大河數衛 小原幸一 渡邊仁作 加藤徳三郎 河合よし江 河合勝太郎 金子延次 吉見鐵三郎 田村辰十郎 田中重作

四六二七 五五六〇 四五〇八 二四二一 四五五六 二七八七 三八〇〇 二八三五 二一七 三〇八九 四八四八 三六三九 二九六一

八三

生絲製造
全町字南新起
小 暇 町
下地町字西
花田町字後田
全町字築地
瓦町字臨濟寺前
花田町字五丁
全町字百北
全町字五丁
全町字堀先
全町字野黒
三ツ相町
向山町字大池
東新町
菫口町
花田町字野添

全町字南新起
小 暇 町
下地町字西
花田町字後田
全町字築地
瓦町字臨濟寺前
花田町字五丁
全町字百北
全町字五丁
全町字堀先
全町字野黒
三ツ相町
向山町字大池
東新町
菫口町
花田町字野添

⑦ 日登館
⑧ 氏原製粉所
⑨ 三省社
⑩ 加藤製糖場
⑪ 山本善次
⑫ 山口要作
⑬ 山本績二
⑭ 黒柳宗七
⑮ 久保田和
⑯ 宇藤菊三
⑰ 氏原助造
⑱ 村田博
⑲ 夏目山太郎
⑳ 中川彦三
㉑ 長坂廣一
㉒ 中村新爾
㉓ 長永梅次郎
㉔ 中村辰太郎
㉕ 園部峯藏
㉖ 園部彌作
㉗ 田中勝造

田中勝造
園部彌作
園部峯藏
中村辰太郎
長永梅次郎
中村新爾
長坂廣一
中川彦三
夏目山太郎
村田博
氏原助造
宇藤菊三
久保田和
黒柳宗七
山本績二
山本要作
山本善次

三八四〇
五三四五
四四九六
四九三七
四九二四
四一三三
四三八八
四七九七
四九一七
五二四五
三七八六
二四一八
三六三二

生絲製造
菫口町
花田町字築地
北 島 町
全町
東新町
花田町字八劍
全町字後田
瓦町字通
花田町字築地
全町字稻場
向山町字大池
前田南町
向山町字傳馬
北 島 町
花田町字野黒
全町字稗田

菫口町
花田町字築地
北 島 町
全町
東新町
花田町字八劍
全町字後田
瓦町字通
花田町字築地
全町字稻場
向山町字大池
前田南町
向山町字傳馬
北 島 町
花田町字野黒
全町字稗田

① 分工場福徳館
② 本工場
③ 福谷館
④ 玉
⑤ 玉
⑥ 玉
⑦ 玉
⑧ 玉
⑨ 玉
⑩ 玉
⑪ 玉
⑫ 玉
⑬ 玉
⑭ 玉
⑮ 玉
⑯ 玉
⑰ 玉
⑱ 玉
⑲ 玉
⑳ 玉
㉑ 玉
㉒ 玉
㉓ 玉
㉔ 玉
㉕ 玉
㉖ 玉
㉗ 玉
㉘ 玉
㉙ 玉
㉚ 玉
㉛ 玉
㉜ 玉
㉝ 玉
㉞ 玉
㉟ 玉
㊱ 玉
㊲ 玉
㊳ 玉
㊴ 玉
㊵ 玉
㊶ 玉
㊷ 玉
㊸ 玉
㊹ 玉
㊺ 玉
㊻ 玉
㊼ 玉
㊽ 玉
㊾ 玉
㊿ 玉

福井小作
福井爲治郎
福井徳太郎
福井廉次郎
福井唯次郎
藤原五吉
藤田房吉
福井直二
近藤末吉
近藤正衛
小久保吉藏
青木郡平
浅井義雄
佐藤金一郎
佐久間松太郎
佐原封吉
岸原一六

五三二九
五四三四
三〇一一
二六八六
四四〇三
五五六八
四九三二
四六三四
四七三〇
三六一四
五五二八
四八九八
五四九五

生絲製造

花田町字百北
全町字野添
菰口町
花田町字流川
全町字五丁
東新町
花田町字堀先
下地町字東
花田町字南島
花田町字池田
全町字五丁
下町
花田町字西郷
瓦町
吉田町
花田町字堀先
向山町字大池

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

花田工場
余田川工場
清水製絲池田工場
廣增館
上竹廣竹中

木全菊次郎
水口新助
水野清
白井十郎
白井朝次
柴田小太郎
柴田鎌太郎
柴田喜代二
清水俊一
清水熊太郎
白井作七
廣中賢治
廣中信太郎
廣田增吉
彦坂竹治
彦坂加守八
平尾彌藏

二〇四
四九八一
二五一
五五七八
三〇四三
二七五八
三四一五
五四八
四九八
二四〇九
五〇六三
四三六七
三六九一

生絲製造

新川町字市南
花田町字呂海道
全町字中郷
下地町字豊麻
山田町字西山
野田町字野田
向山西町
吉田町
花田町字百北
全町字齋藤
全町字野添
全町字五丁
全町字築地
全町字百北
三ノ輪町字白山
花田町字野黒
中柴町字中柴

㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

分工場

鈴留吉
鈴木松太郎
鈴木泰助
鈴木磯太郎
鈴木榮一
鈴木福松
鈴木米吉
鈴木つま
鈴木國三郎
鈴木伊作
鈴木耕作
杉浦晃一
杉浦助太郎
杉浦太郎
杉浦房太郎
杉浦三津次
杉浦萬吉
鈴木秀作

五四八二
三五二七
二六七九
五三六五
四一三二
三二九七
四〇四六
二五一七
二七八六
四三五三
三六九三
二九六四

生絲製造

花田町字後田

全 町字野添

全 町字西郷

全 町字池田

全 町字小松

全 町字五丁

全 町字大塚

全 町字流川

全 町字南田

全 町字北島

全 町字玉絲製造

【玉絲ノ部】

花田町字流川

小池町字曲田

花田町字塞神

北島町

合資會社丸羽大羽製絲場

合資會社 曲文製絲場

合資會社 堀田製絲場

株式會社 共立社

合資會社丸五組製絲所

合資會社山竹組大正館製絲所

合資會社白河館製絲場

合資會社 內藤製絲場

合資會社丸合河合製絲所

合資會社昭和組小久保製絲場

合資會社 丸ノ製絲場

三八八九

四八九一

三九三七

二九〇八

三四六一

三四三六

三三六二

五〇九七

三〇〇三

池田 興吉

今泉 徹

大林 正志

大澤 松次郎

三八二七

五四二二

四一〇三

四七四一

玉絲製造

北島町

全 町字百北

全 町字堀先

全 町字築地

全 町字新町

全 町字南町

全 町字小磯町

全 町字西口町

全 町字菰口町

全 町字花田町

全 町字手棒

全 町字手棒

全 町字前田

全 町字花田町

全 町字大塚

全 町字松山

全 町字小池町

六

小

查

合

子

固

三

省社

上

岩

舍

分

下

中

源

大林 彌之助

小原 幸一

小原 精一

小原 助三郎

金子 厚司

德增 作五郎

金子 義人

吉川 房吉

高橋 善治郎

宇藤 善藏

小松 德三郎

後藤 勝次郎

淺井 義雄

木下 儀一

柴田 げん

清水 壽一

鈴木 勤

三四二

二八三五

四四三九

二一五八

三〇三七

三三四三

五二六九

二八四三

三四三八

二二六四

二五五六

三六一四

三七〇一

三七〇六

四七四五

四四〇八

玉絲製造
花田町字大塚
北島町字北島
舟原町

鈴木 爲雄
合名會社九十内藤製絲場
合資會社丸合河合製絲所

4 屑 繭・生皮苧 (副蠶絲)

生皮苧
東小田原町
花田町字百北
全町字稻場
全町字稗田
全町字狹間
東小田原町
全町
花田町字稗田
吉田町
花田町字稗田
東小田原町

今原 榮
石川 善七
林 信衛
西野 章八
近田 吉次郎
堀野 菊次郎
河合 孝昌
玉森 英治
高瀬 榮三
中山 吉作

生皮苧・再整絹糸
西小田原町
全町
靴下切斷・絹紡原料
全町
生皮苧
松葉町
東小田原町

名倉 豐次郎
梅村 清助
山本 豐治郎
前田 弘
松尾 幸次郎
藤田 壽一
近藤 建二
小松 儀作
福田 愛三
荒井 馨
神原 才一
坂柳 聰明
清水 利一
日比 利吉
杉山 鐵郎
鈴木 秀太郎
鈴木 芳太郎

製造、卸
代用皮革・絹皮
西新町
花田町字稗田
全町字稗田
中柴町字道六
花田町字齋藤

呼三四九〇
二五〇七
二八〇九
二八七九
三九六一
三九三〇
二二七四

製造
繭短纖維
全町字野黒
西小田原町
花田町字稗田
東小田原町

日本絹織維工業所
三〇五四
四〇一五
二八五九

全卸
生皮苧・副蠶糸
全町
神明町

三〇〇三
二八二五
五四一七
四五〇四
五五七三
三〇三八
三二一七
二六四二
三六七一
三九八一
二八六一
三八三三

再整絹糸 製造

花田町字築地

㊦

渡會春

治

五一三

全

瓦町字臨濟寺前

㊧

影山仗太

郎

四一八九

全

花田町字稻場

三

河合金

助

四三八二

全

全町字堀先

三

金子俊

男

四三八二

再整絹糸 製造

全町字中郷

三

河合福

次

四三八二

全

上傳馬町

三

金子禮

男

四三八二

全

船

三

芳村清治

郎

四三八二

全

花田町字堀先

三

龜田唯

雄

四三八二

全

全町字碑田

高

高瀬榮

三

二八六一

再整絹糸 製造

中柴町字道六

高

高橋高

二

二八六一

全

花田町字東郷

高

高橋市

助

二八六一

全

全町字流川

高

高柳守

章

五一六五

全

松坂町

命

中野品

男

五一六五

全

舟原町

命

夏目

傳

三三七四

全

花田町字八通

名

名倉次郎

吉

三三七四

全

西小田原町

名

倉次郎

吉

三三七四

全

瓦町字南裏

名

倉次郎

吉

三三七四

再整絹糸 製造

旭町字旭

命

中山菅

藏

四一八四

靴下 製造

中世古町

中

中山

三

四一八四

再整絹糸 製造

關屋町

那

須正三

郎

四一八四

全

花田町字野黒

村

村雪藤

一

四一八四

再整絹糸 製造

東新町

村

村雪藤

一

四一八四

全

東田町字東郷

村

村雪藤

一

四一八四

全

花田町字野添

村

村雪藤

一

四一八四

全

船

村

村雪藤

一

四一八四

全

花田町字堀先

村

村雪藤

一

四一八四

全

全町字野添

村

村雪藤

一

四一八四

再整絹糸 製造

湊町

村

村雪藤

一

四一八四

全

花田町字齋藤

村

村雪藤

一

四一八四

再整絹糸 製造

全町字後田

村

村雪藤

一

四一八四

全

中柴町字中柴

村

村雪藤

一

四一八四

全

花田町字稻場

村

村雪藤

一

四一八四

全

旭町字旭

村

村雪藤

一

四一八四

再整絹糸 製造

花田町字中郷

村

村雪藤

一

四一八四

再整絹糸 製造

花田町字中郷

村

村雪藤

一

四一八四

再整絹糸 製造

花田町字中郷

村

村雪藤

一

四一八四

再整絹糸 製造

花田町字中郷

村

村雪藤

一

四一八四

再整絹糸 製造

花田町字中郷

村

村雪藤

一

四一八四

再整絹糸 製造

花田町字中郷

村

村雪藤

一

四一八四

再整絹糸 製造

花田町字中郷

村

村雪藤

一

四一八四

再整絹糸 製造 花田町字大塚 ⑧ 前田商店 前田 弘 三五〇七

全・輸入靴下屑 全 町字堀先 前田 公太郎 三

再整絹糸 製造 小池町字西海戸 藤田 繁次 二

全 山田町字西山 藤田 米吉 二

全 花田町字北新起 福井 直二 二

全・ダルマ生糸 全 町字後田 ⑨ 藤井 米市 二

再整絹糸 製造 全 町字齋藤 万惣絹糸工場 近藤 仙松 二

全 牟呂町字八王子 小 林 仙松 二

全 花田町字後田 小 久保 正雄 二

全 町字堀先 近藤 治郎 吉 二

全 前田 南町 小 林 喜一 二

全 花田町字流川 ⑩ 木工所 寺田 祐一 二

再整絹糸 製造 中柴町字道六 朝倉 工場 朝倉 祐一 二

全 小池町字鴨田 荒川 木 弘 二

全 下地町字豊麻 合川 英一 二

全・古絹靴下 花田町字後田 三竹 明治 二

各種靴下撚糸製造 前田 南町 白井 仙五郎 二

再整絹糸 製造 花田町字大塚 小野 屋 柴田 市郎 二六四四

全 町字石塚 彦坂 周一 二

全 町字齋藤 平松 篤一 二

全 町字野添 森下 圭太郎 五五二三

全 下地町字豊麻 空野 計三 二

全 花田町字南新起 菅谷 さき 二

全 町字後田 ⑪ 町和麻所 鈴木 喜一 二八四五

全 町字五丁 鈴木 保二 二

全 町字堀先 鈴木 増吉 二

全 中世古町 鈴木 吉次 二

全 北島町 鈴木 吉次 二

6 麻真田製造・麻糸連續

麻真田製造・紙テープ 新 錢 町 ① 井上商店 井上 一枝 三四五六

麻真田製造 中柴町字道六 市川 三代吉 二〇三五

全・薪炭 談合町 岩田 太七 九七

麻真田製造 吉田町
 全 花田町字野黒
 全・ゴム紐・紙撚 全町字野黒
 全・再整絹糸製造 中世古町中世古
 麻真田製造 神明町
 全 鍛冶町
 全・疊堅糸製造 花田町字松山
 麻真田製造 南榮町字蟹原
 全 花田町字寺東
 全 旭町字旭
 全 船町
 全・撚糸 東田町字齋兵
 麻真田製造 全町字西脇
 全・セロファン織物 前田町
 麻真田製造 花田町字野黒
 全 中柴町字中柴
 全 東田町字西前山

岩瀬重次郎 三三七七
 伊藤佐次郎 四一五八
 磯村定一 二二七七
 早川九平 五五六九
 花井泰治
 富田稔
 大場清之助
 大竹順平
 大羽芳次
 尾崎憲三
 竹内豊治郎
 河合紋七
 加藤加
 加茂政雄
 影山孝
 吉濱麟之助
 塚田り玄

麻真田製造 關屋町
 全 西小田原町
 全 花田町字神田
 全 前田南町
 全・紙紐
 テロファン紐製造 船町
 麻真田製造 花田町字大塚
 全・セロファン織物 柳生町
 全・セロファン糸 マオラン・紙糸 向山大池町
 麻真田製造 花田町字齋藤 松本麻糸工場
 全 東小田原町 牧野眞田工場
 全・綿糸・人絹 吉田町 藤井眞田工場
 麻真田製造 中柴町字道六 藤喜商店
 全 花田町字大塚
 全 全町字南新起
 全 東小田原町
 全 關屋町
 全 花田町字大山塚

中山光男 三三五八
 中村才次 四四九一
 中井寶一 四五一九
 永田源一 三九七九
 山本逸二 四九〇二
 松本忠一 三三九五
 牧野録吉 五三三五
 藤井理一 三六一九
 藤井吉太郎 五五七五
 藤井昇 四六五三
 小松玉吉 三五五五
 小林太市 四八九七
 清川仲二
 白井隆次郎

麻真田製造
 東新町
 花田町字稻場
 全
 横須賀町
 東田町字東前山
 全
 花田町字東郷
 全
 前田町
 全
 花田町字築地
 全
 全町字狭間
 全
 山田町字西山
 全
 花田町字石塚
 全
 神明町
 全
 吉田町
 全
 小暖町
 全
 前田南町
 全
 花田町字南島
 全
 小暖町
 全
 南榮町字蟹原

柴田弘治 三九一七
 神原うめの 〇
 齋藤六二 〇
 彦坂しのへ 〇
 日比一 郎 五五二二
 森田正 郎 三三〇六
 杉田笹雄 四三七一
 鈴木ま ん 四六八一
 鈴木國男 二九七九
 鈴木精太郎 四九〇七
 曲七合名會社 五五一七
 合資會社金澤商店 二六四七
 合資會社山中商店 〇
 合資會社岡本麻真田工場 〇
 伊藤常治 二七九〇
 大林和一 三二八七
 大羽藤太郎 〇

麻糸類・櫛堅糸製造
 全・材木
 全・製造販賣
 麻糸連續
 全
 全・再整絹糸製造
 麻屑
 全
 マオラン麻
 全
 中柴町字道六

住吉町 〇
 湊町 〇
 花田町字稗田
 吉田町
 西新町
 中世古町中世古
 北島町
 東小田原町
 花田町字流川
 中柴町字道六
 山之出商店
 山本仲次 四六四七
 松井艶次 四一〇九
 白井半平 五四三九
 鈴木盛一 四四四六
 鈴木木末次 〇
 井口末次 〇
 伊東銀次郎 〇
 榎本久作 〇
 田島太郎 〇
 植村治敬 〇

7 糸類・ガラ紡・燃糸

製造
 撚糸・酒
 結東糸
 疊表堅糸製造
 各種糸類・毛糸
 手織用品
 富本町字東郷 二
 花田町字南島
 全町字松山
 松葉町
 大石商店

堀部密雄 四〇七二
 浦野浦次郎 四七三八
 大場清之助 二六八一
 大石光次 〇

製造、卸	製造	製造	製造、小
綿	綿	綿	綿
全	全	全	全
綿	綿	綿	綿
綿・蒲團・絹紡糸	綿	綿	綿
前田南町	旭町字旭	野田屋	稲吉せつ
花田町字城海津	前田南町	綿一商店	伊藤千吉
全町字流川	花田町字流川	豊橋真綿加工所	岩脇七右工門
吉田町	前田町	中	原田三次郎
花田町字流川	花田町字西宿	小	羽田喜平治
全町字西宿	西小田原町	鳥山三郎	原田喜平治
花田町字稗田	全町字南島	鳥居豐作	西尾竹治
往完町	東田町北臨濟寺	近田福太郎	堀秀松
前田町	新川町字新錢	大崎太一郎	大崎林延
花田町	花田町	渡邊久男	大崎林延
父山田屋	父山田屋	渡邊久男	大崎林延
三四三九	三四三九	三四三九	三四三九

製造	製造、卸	製造、卸	製造、卸
蒲團・呉服	綿・蒲團	綿・蒲團・蚊帳	綿・蒲團・蚊帳
北島町字高田	花田町	曲尺手町	吉田町
草間屋	草間屋	支店	支店
金子米三郎	加藤彌直	加藤彌之助	吉田増次郎
三九五二	三三四七	二二〇一	三六一八
高倉榮助	高倉喜一郎	高倉忠助	高倉忠助
四三四三	四三四三	四三四三	四三四三
夏目芳雄	山田孫一	山脇徳造	山口常次郎
三三〇四	呼四〇五六	呼四〇五六	呼四〇五六
山脇辰藏	山脇善次郎	山脇善次郎	山脇善次郎
五〇四六	五〇四六	五〇四六	五〇四六
呼三七六七	呼三七六七	呼三七六七	呼三七六七

綿	花田町字松山	三	前田	榮	五二四八
蒲團・蚊帳	本町	三	安藤伊三郎		
綿・蚊帳	松葉町	金	安藤昇一		
眞綿	東小田原町	恵	安食忠彌		
全	新錢町	金	安食小一郎		
蒲團・蚊帳・株式	花田町字松山	金	青島忠助		
棉花・ガーゼ	東小田原町	金	淺井代作		
綿・眞綿	花田町字流川	今	北川龍一		
眞綿	全町字狹間	食	清水長太郎		
蒲團・太物	魚町	西	鈴木ヨシエ		
眞綿	花田町字城海津	富	鈴木多吉		
綿・蒲團	全町字流川	士	廣瀬多吉		
眞綿・綿・蒲團	全町字狹間	カ	合名會社加藤秀次郎商店		
綿・各種纖維	新錢町	草	株式會社加藤綿行		
全・寢具	花園町	草	合資會社草間屋商店		

10 絹

綿

製造	絹綿・蒲團	吉田町	羽田	豐	五二三九
製造	絹綿	下五井町字宮後	大森顯一郎		
全	全・製綿	東小田原町	北川市次郎		
全・絹紡糸・ガラ紡糸	新錢町	草	株式會社加藤綿行		
セリシン定着	吉田町	草	豐橋絹綿株式會社		

11

吳服・太物・モスリン

製造	太物・ネル	新川町字新錢	伊丹	金次郎	五三八〇
既製吳服・太物	花園町	三島屋	市川信一郎		
吳服・太物	手間町	はやし屋	林竹臣		
全・モスリン	札木町	全	本多悅次		
全・太物	花田町字城海津	サ	富安正男		
全	東八町八町市場	外山商店	外山榮		
全	花田町字野添	徳	徳山		
全	中八町	善	大美末吉		
全	花園町	善	岡本善次		

製造、卸、小
 漁網・麻物
 花田町字西宿 五四八五
 新川町字新銭 三二四八
 關屋町 網 太 五〇三五
 合資會社三井商店
 合資會社網太山本安太郎商店
 合資會社ミズセロファン商會

13 和服・ミシン裁縫

和服裁縫 花田町字稗田
 ミシン仕立 全町字流川
 和服裁縫 清水町
 全 札木町 鶴川屋
 全 三浦町
 全 新川町字市南
 全 魚町
 全 手間町
 ミシン裁縫 中世古町字前田
 シヤツ・エプロン 神明町
 岩瀬友治 五四八五
 今泉貞次 三二四八
 伊藤正次 五〇三五
 犬塚喜代藏
 藤井鶴次
 藤井則爾
 藤城良吉
 藤城政次
 西尾泰三
 下山禮二
 三四八八

14 洋服・洋裁生地

軍服・洋服 小池町字角田 伊藤洋服店 四九六四
 全 下町
 全 北丘町
 軍服・洋服 札木町
 洋服・羅紗 曲尺手町
 全 小池町字上田
 洋服・洋服地・既成品 本山町 山田屋 三二四二
 全 既成服 全町 山田屋 二九四四
 小 供服 花園町 トミヤ 三八三六
 洋 服 札木町
 既 製 服 新川町字市南 あめや 四九三一
 全 洋 服 全町字市南 渡邊洋服店 四四二八
 全 全 關屋町
 全 西新町
 全 旭町字旭 東三堂
 伊藤貞司 四九六四
 伊藤光雄
 石田友平 五四一八
 花井幸七 三四八〇
 林武吉
 戸田藤次
 富田政藏 三二四二
 富田芳雄 二九四四
 富田博 三八三六
 富安讓兵 四九三一
 鳥居信一
 大塚利吉 四四二八
 渡邊秀三郎
 柿田實
 河合魯市 一一一五

15 防水マント・日覆

防水マント・日覆 新 銭 町

丸 地 和 平 四七七九

16 洋物・洋品・雜貨類

製造、小	洋品	松葉町字南	伊藤 千松	三三七一
	全	松葉町	伊藤 兼次	五三六三
	全	山田町字西山	今泉 徳造	四六八二
	全	湊町	犬飼 喜助	四四一四
	全	魚町	犬飼 萩三郎	五一七〇
製造、卸	全・金銭貸付・玩具	花田町字西宿	岩瀬 猪三郎	
	足袋・雜貨	神明町	岩瀬 五郎兵衛	
	洋品	吳服町	稻垣 彌太郎	
	全	花田町字西宿	外山 彌太郎	
	全	小池町字角田	鳥居 すす	
	全	花田町字野黒	小柳 津省二	
	全	全町字稗田		

製造、卸

洋品	花園町	芳賀 春治	三三七一
全	下町	尾内 清次郎	五三六三
全	東小田原町	大久保 八四郎	四二八五
全	花田町字百北	河合 廉治	
アツシ・ツヤツ・足袋	吳服町	梶本 與吉	四七一七
洋品・雜貨	本町	田中 岩吉	五一四九
メリヤス・既成服	新川町字市南	鳥居 信一	三八一八
洋品・雜貨	花園町	田中 平六	五四〇八
全	札木町	高木 仁一	三〇一七
全	花園町	中島 榮	四八六六
全	全町	中村 吾平	
洋品・足袋	札木町	夏目 整一	
洋品・雜貨	花田町字池田	村上 種次	
メリヤス・雜貨・足袋	魚町	村上 高次	
洋品・雜貨	柳生町	野口 嘉一	
全	新銭町	野澤 金次	

洋品・雜貨	新 錢 町	浦 柴 屋	鈴 木 柴 藏	五二七八
全	新川町字新錢		鈴 木 與 四 郎	
洋傘・シヨール	魚 町	② 久	鈴 木 省 平	二九三五
足 袋	神 明 町	カネマン支店	鈴 木 三 郎	
洋品・雜貨	小池町字角田	正 直 屋	鈴 木 直 三 郎	四四五四
全	魚 町	イアキ屋	杉 浦 才 次 郎	五三八一
全	旭町字旭		杉 浦 多 一	
メリヤス・雜貨	新 錢 町	奈	杉 山 宗 太 郎	五五七四
足 袋・ゴム靴	船 町	③	合資會社松井商店	三八七六
洋品・雜貨	魚 町	ツ タ ヤ	合名會社ツタヤ洋裝店	四四七一

17 化粧品・小間物

小間物・雜貨・葺	東田町字五反畑	舟 織 屋	伊 藤 大 吉	四八二六
化粧品・雜貨・文房具	下 町	中 金 屋	今 井 金 作	五二六四
化粧品・小間物	新 錢 町	博 多 屋	市 川 哲 雄	四三〇八
全	中柴町字中柴	石 原 屋	石 原 壽 吉	五一七七
全		三 越 屋		

小 間 物	螢 町	④ 福 助 屋	渡 邊 菊 太 郎	呼三七〇二
全	新 錢 町	ハイカラヤ	小 笠 原 太 次 郎	
全	東田町字齋兵		大 山 平 太 郎	四八一四
全	花田町字築地	キゲンヤ西店	大 島 馨	
全・化粧品	全 町字城海津		加 藤 新 吉	四一一八
全	指 笠 町	新 用	片 野 金 次	二三六六
全	魚 町	明 石 堂	川 部 よ う	
全・小間物・貴金屬	上 傳 馬 町	⑤	河 合 太 郎	二一七九
全	湊 町	カゲヤマ百貨店	蔭 山 九 郎	
全・百貨	松 葉 町	安	中 山 幸 四 郎	
化粧品・小間物	全 町	三 中 村 屋	中 村 三 藏	五一六九
全	指 笠 町	京 橋 屋	中 神 亮	四〇二七
化粧品・小間物	松 葉 町	フ ジ ヤ	植 原 信 男	三六三八
全	手間町(松竹館)	今	内 藤 柵 可	
全	本 町	山	植 原 信 男	
全・太物・雜品	下地町字東	圓	内 山 初 雄	
化粧品・小間物	新川町字市南	マツバヤ小間物店	山 口 万 助	

眼 鏡 札 木 町
 杉 浦 一 雄
 四 五 五 四

19 鬘 製 造

麻 木 綿 袋 松 葉 町
 朝 倉 秀 爾
 三 〇 三 九

20 靴・鞆・馬具・軍用雜貨

靴 附 屬 品 吉 屋 町
 伊 藤 正 一
 五 四 七 四

靴・馬具・教練用品 小池町字角田 大野軍需本店
 大 野 鎌 次 郎
 三 八 二 八

靴・軍用雜貨 西 八 町 近 江 屋
 兼 房 傳 一
 五 五 六 二

靴 魚 町 小池町字原下 ムテキ靴製造所
 竹 内 末 三 郎
 二 五 四 五

全 北 島 町 指 笠 町 中 八 町 新 錢 町
 中 島 松 壽
 三 六 〇 五

軍 用 雜 貨 新 錢 町 富 田 屋
 山 口 ひ さ 子
 四 八 三 七

製造、卸、小

製 造

卸

卸

卸

卸

靴

全

全

全

製造、小

馬 具 富 本 町 字 國 隱 今
 山 本 淺 次 郎
 四 一 四 一

軍 手 橋 良 町 字 東 蒙 富 田 屋
 山 内 和 七
 三 六 〇 五

護 謨 靴・地下足袋 湊 町 富 田 屋
 牧 野 久 秋
 五 一 八 八

靴・鞆・行 李 新 錢 町 中 八 町 新 錢 町
 福 倉 吉 之 助
 二 八 一 一

靴・袋物・全網刺材料 紺 屋 町 一 心 堂
 藤 本 秋 太 郎
 二 七 五 六

靴・靴材料 新 錢 町 近 藤 商 店
 近 藤 金 一
 五 二 〇 二

靴・靴・足 袋 船 町 近 藤 靴 店
 近 藤 じ ゆ う
 三 六 八 三

全 札 木 町 明 治 屋
 足 立 隼 太 藏
 二 一 二 六

全 西 八 町 朝 倉 内 頭
 朝 倉 内 頭
 三 三 二 六

全 松 葉 町 朝 倉 内 頭
 朝 倉 内 頭
 三 三 二 六

全 東 田 町 字 北 蓮 田 朝 倉 内 頭
 朝 倉 内 頭
 三 三 二 六

全 新 川 町 字 市 南 朝 倉 内 頭
 朝 倉 内 頭
 三 三 二 六

全 神 明 町 朝 倉 内 頭
 朝 倉 内 頭
 三 三 二 六

靴・袋 物 花 園 町 七 都 屋
 安 藤 廣 三 郎
 三 三 二 六

全 卸、小

古 着 花田町字狭間 各 呼四九二一
 全 曲尺手町 由 一三二
 全 指笠町 卜
 全 新錢町 イチマル
 全 新川町字市南 ツルヤ
 全 札木町 玉岡屋
 全 新川町字新錢 久鈴木商店
 全 花田町字城海津 水野鷹磨
 全 金錢貸付 白井一三
 全 古道具 水野鷹磨

23 國旗・提灯

雛人形・國旗 伊藤太助 三八三二
 裝飾用品・結納品 魚町

24 染物・洗張・悉皆・消防服

染物 伊藤市藏
 紋物 伊藤市藏
 刺子業 花田町字絹田 三ツ輪
 曲尺手町 京
 花田町字築地 永井健一
 花田町字松山 川瀬進
 東田町字西脇 木和田壽一
 小池町字角田 朝河勇次
 新川町字市南 白井廣次
 魚町 鈴木耕一
 中柴町字道六 杉江喜平
 西小田原町 柴田啓次郎
 鍵田町字橋詰 市田商事株式會社

製 造

25 百貨店

全 百貨店 清水町 花田町
 全 染物・洗張 西八町 京
 全 染物・洗張 旭町字旭 上
 全 往完町字往還東 永
 全 花田町字築地 京
 全 曲尺手町 京
 全 花田町字松山 港
 全 東田町字西脇 河
 全 小池町字角田 植田屋
 全 新川町字市南 植田屋
 全 魚町 漆
 全 印染專門・防空用具 杉
 全 洗物・洗張 柴田屋
 全 印染消防服 可
 全 百貨店 清水町 花田町
 株式會社丸物豐橋支店 四二六三九
 株式會社松坂屋豐橋出張所 三九五五
 一三三

第三類

油・藥・染料・塗料・燃料・鑛製品・建築材料
木材・石材・折箱・線物・木管

第三類

木材・石炭・石油・海産物・農産物・畜産物・肥料・飼料・肥料・飼料・肥料・飼料

第三類 油・藥・染料・塗料・燃料・鑄製品・建築材料・木材・石材

1 油類

營業種目	住 所	商 號	氏 名・名 稱	電 話 番 號
油・砂 糖	新川町字新錢	米 代	中 村 代 助	二九〇九
全・肥料・雜穀	下地町字豐麻	全	山 本 高 太 郎	二〇五二
アレピン油・自轉車	松 葉 町		青 木 瀧 二	五四〇一
油類・砂糖	下 町	佐 野 屋	佐 野 菊 次 郎	二四〇三
全	船 町	本	榎 本 民 平	四一三
油 類	中柴町字道六	〇	鈴 木 近 太 郎	三三八五
全	小池町字角田	〇	鈴 木 傳 次	二九五三
蠶蛹精練・蛹 油	花田町字大塚	〇	合資會社岡本商店	二三五五
油類・石炭・煉炭	全 町字西宿		株式會社鈴與商店豐橋支店	二三五八
米 油	北島町字高田		株式會社光明麥精麥所	二一八三
蛹 油・飼肥料	牟呂町字扇田		ユタカ産業株式會社	三七八〇